平成29年9月 第3回佐々町議会定例会 会議録（3日目）

1. 招集年月日 平成29年9月27日（水曜日） 午前10時00分
2. 場 所 佐々町役場 3階 議場
3. 開 議 平成29年10月2日（月曜日） 午前10時00分

4. 出席議員（10名）

議席番号	氏 名	議席番号	氏 名	議席番号	氏 名
1	永安文男君	2	浜野 亘君	3	永田勝美君
4	長谷川忠君	5	阿部 豊君	6	橋本義雄君
7	平田康範君	8	須藤敏規君	9	川副善敬君
10	淡田邦夫君				

5. 欠席議員（なし）

6. 法第121条による説明のための出席者職氏名

職 名	氏 名	職 名	氏 名	職 名	氏 名
町 長	古庄 剛君	副 町 長	大瀬忠昭君	教 育 長	黒川雅孝君
総 務 理 事	迎雄一朗君	総 務 課 長	川内野勉君	企画財政課長	今道晋次君
住民福祉課長	藤永大治君	税 務 課 長	松本孝雄君	保険環境課長	川崎順二君
会 計 管 理 者	内田明文君	建 設 課 長	山本勝憲君	水 道 課 長	橋川貴月君
産業経済課長 兼農業委員会事務局長	大平弘明君	教 育 次 長	水本淳一君		

7. 職務のための出席者職氏名

職 名	氏 名	職 名	氏 名
議会事務局長	中村義治君	議会事務局書記	山藤宏太君

8. 本日の会議に付した案件

- 日程第1 会議録署名議員の指名
- 日程第2 議案第54号 平成29年度 佐々町一般会計補正予算（第2号）
- 日程第3 議案第55号 平成29年度 佐々町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）
- 日程第4 議案第56号 平成29年度 佐々町介護保険特別会計補正予算（第1号）
- 日程第5 議案第57号 平成29年度 佐々町後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）
- 日程第6 議案第58号 平成29年度 佐々町国民健康保険診療所特別会計補正予算（第1号）
- 日程第7 議案第59号 平成29年度 佐々町公共下水道事業特別会計補正予算（第1号）

日程第8	議案第60号	平成29年度 佐々町農業集落排水事業特別会計補正予算（第1号）
日程第9	議案第61号	平成29年度 佐々町水道事業会計補正予算（第2号）
日程第10	諮問第1号	人権擁護委員候補者の推薦に関する件
追加日程第1	議案第62号	佐々町監査委員の選任について同意を求める件
追加日程第2	議案第63号	平成29年度 佐々町一般会計補正予算（第3号）
日程第11	意見書第4号	玄海原子力発電所の再稼働に反対する意見書（案）の提出について
日程第12	意見書第5号	道路整備事業に必要な予算確保に関する意見書（案）の提出について
追加日程第3	議案第64号	町長及び副町長の給与に関する条例の一部改正の件
日程第13	発議第5号	議員の派遣について
日程第14		閉会中の所管事務調査

9. 審議の経過

（10時00分 開議）

— 開議 —

議 長（淡田 邦夫 君）

皆さん、おはようございます。ただいまから平成29年9月第3回佐々町議会定例会3日目を開会します。

本日の出席議員は全員です。

これより本日の会議を開きます。

— 日程第1 会議録署名議員の指名 —

議 長（淡田 邦夫 君）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

本日の会議録署名議員は、会議規則の規定によって、4番、長谷川忠君、5番、阿部豊君を指名します。

— 日程第2 議案第54号 平成29年度 佐々町一般会計補正予算（第2号） —

議 長（淡田 邦夫 君）

2日目に引き続き、議案の上程を行います。

質疑、討論、採決の順で進めます。

日程第2、議案第54号 平成29年度佐々町一般会計補正予算（第2号）を議題とします。

執行の説明を求めます。町長。

町 長（古庄 剛 君）

（議案第54号 朗読）

中身につきましては、企画財政課長をもって説明させますので、よろしくお願い申し上げます。

議 長（淡田 邦夫 君）

企画財政課長。

企画財政課長（今道 晋次 君）

それでは、1枚めくっていただきまして、1ページからでございます。

第1表、歳入歳出予算補正、歳入。

1 款町税、補正額4,811万5,000円、計15億8,205万8,000円。1 項町民税、補正額3,181万5,000円、計7億3,083万円。2 項固定資産税、補正額1,700万、計6億9,194万8,000円。3 項軽自動車税、補正額、減額70万円、計4,448万円。

8 款地方特例交付金、補正額、減額102万2,000円、計1,097万8,000円。1 項地方特例交付金、補正額、計ともに同額です。

9 款地方交付税、補正額、減額1,456万1,000円、計13億9,543万9,000円。1 項地方交付税、補正額、計ともに同額です。

11 款分担金及び負担金、補正額42万6,000円、計1億2,158万5,000円。2 項分担金、補正額42万6,000円、計42万6,000円。

13 款国庫支出金、補正額、減額227万1,000円、計7億3,044万9,000円。1 項国庫負担金、補正額266万8,000円、計5億3,784万1,000円。2 項国庫補助金、補正額、減額493万9,000円、計1億8,751万2,000円。

14 款県支出金、補正額2,476万円、計5億2,276万円。2 項県補助金、補正額2,476万円、計2億241万9,000円。

15 款財産収入、補正額52万7,000円、計2,299万5,000円。2 項財産売払収入、補正額52万7,000円、計369万5,000円。

17 款繰入金、補正額、減額4,000万、計3億8,312万4,000円。2 項基金繰入金、補正額、減額4,000万、計3億8,312万3,000円。

18 款繰越金、補正額2億1,280万8,000円、計2億1,280万9,000円。1 項繰越金、補正額、計ともに同額です。

19 款諸収入、補正額521万3,000円、計6,061万6,000円。4 項雑入、補正額521万3,000円、計5,916万1,000円。

ページが変わります。20 款町債、補正額、減額310万円、計2億9,340万円。1 項町債、補正額、計ともに同額です。

歳入合計、補正額2億3,089万5,000円、計58億6,826万9,000円。

すいません、ページをおめくりいただきまして、3ページになります。歳出です。

1 款議会費、補正額113万7,000円、計8,153万円。1 項議会費、補正額、計ともに同額です。

2 款総務費、補正額4,524万円。計6億3,653万9,000円。1 項総務管理費、補正額5,060万1,000円、計5億1,970万6,000円。2 項徴税费、補正額、減額553万7,000円、計6,785万8,000円。3 項戸籍住民基本台帳費、補正額17万6,000円、計2,717万8,000円。

3 款民生費、補正額、減額288万円、計18億9,829万3,000円。1 項社会福祉費、補正額256万6,000円、計7億4,675万3,000円。2 項児童福祉費、補正額、減額544万6,000円、計11億5,134万円。

4 款衛生費、補正額1,814万6,000円、計6億8,544万7,000円。1 項保健衛生費、補正額、減額651万2,000円、計3億7,672万3,000円。2 項清掃費、補正額2,458万1,000円、計3億214万8,000円。3 項診療所費、補正額7万7,000円、計657万6,000円。

6 款農林水産業費、補正額1,328万7,000円、計1億8,091万4,000円。1 項農業費、補正額1,330万8,000円、計1億7,279万5,000円。2 項林業費、補正額、減額2万1,000円、計791万9,000円。

7 款商工費、補正額、減額228万2,000円、計2,891万9,000円。1 項商工費、補正額、計とも

に同額です。

8 款土木費、補正額137万円、計 9 億2,066万4,000円。1 項土木管理費、補正額93万6,000円、計7,057万3,000円。2 項道路橋梁費、補正額1,830万、計 2 億2,047万5,000円。5 項都市計画費、補正額、減額1,840万、計 3 億8,465万5,000円。6 項住宅費、補正額53万4,000円、計 1 億5,756万2,000円。

ページ移りまして、4 ページになります。9 款消防費、補正額1,097万1,000円、計 2 億991万2,000円。1 項消防費、補正額、計ともに同額です。

10 款教育費、補正額463万7,000円、計 5 億1,038万5,000円。1 項教育総務費、補正額、減額365万円、計8,241万8,000円。2 項小学校費、補正額46万1,000円、計 1 億3,078万8,000円。3 項中学校費、補正額56万5,000円、計7,074万円。4 項幼稚園費、補正額184万9,000円、計 8,270万9,000円。5 項社会教育費、補正額445万2,000円、計 1 億913万9,000円。6 項保健体育費、補正額96万円、計3,459万1,000円。

11 款災害復旧費、補正額3,299万4,000円、計3,300万5,000円。1 項公共土木施設災害復旧費、補正額400万7,000円、計401万3,000円。2 項農林水産施設災害復旧費、補正額2,898万7,000円、計2,899万2,000円。

13 款諸支出金、補正額 1 億640万5,000円、計 1 億2,466万4,000円。1 項基金費、補正額、計ともに同額です。

14 款予備費、補正額187万円、計2,560万9,000円。1 項予備費、補正額、計ともに同額です。歳出合計、補正額 2 億3,089万5,000円、計58億6,826万9,000円。

それでは、まためくっていただきまして、5 ページになります。第 2 表、繰越明許費。

11 款災害復旧費、2 項農林水産施設災害復旧費、事業名、29 年災農業用施設災害復旧事業、金額2,500万。この繰越明許につきましては、ことしの 7 月豪雨にかかる災害でございまして、松瀬の頭首工の復旧工事でございます。災害査定が10月の下旬に予定されており、発注が12月になる見通しであることから、また当該工事にかかる標準工期も 5 か月程度が想定されることから、今回予算計上とあわせて繰越明許費の計上をさせていただいているところでございます。

続きまして、6 ページ、第 3 表、債務負担行為補正。

追加事項、佐々町地域おこし協力隊員用公用車リース料、期間、平成30年度から32年度まで、限度額、264万6,000円。公用車リース料（建設課）、期間、平成30年度から平成36年度まで、限度額、823万2,000円。この債務負担行為の補正につきましては、改めて後ほど別途説明を申し上げますが、地域おこし協力隊につきましては、今回 2 名を想定しているところでございます。また、公用車のリースにつきましても、建設課の公用車として 2 台を予定しているところでございます。

すいません、めくっていただきまして、7 ページになります。第 4 表、地方債補正。

追加、起債の目的、緊急防災・減災事業債、防災行政無線局等増設事業、限度額630万。すいません、ちょっと下もあわせて読み上げさせていただきます。起債の目的、災害復旧事業債、29 年災河川等災害復旧事業、限度額、130万、起債の方法、普通貸借または証券発行、利率、年 2.0%以内（ただし、利率見直し方式で借り入れる政府資金及び地方公共団体金融機構資金については利率見直しを行った後においては、当該見直し後の利率）。償還の方法、政府資金については、その融資条件により、銀行その他の場合には、その債権者と協議する。ただし、町財政の都合により据置期間及び償還期限を短縮し、または繰上償還もしくは低利に借り換えすることができる。

変更、起債の目的、臨時財政対策債、補正前、限度額、2 億円、起債の方法、普通貸借または証券発行、利率、年 2.0%以内（ただし、利率見直し方式で借り入れる政府資金及び地方公共団体金融機構資金について、利率見直しを行った後においては、当該見直し後の利率）、償還方法、政府資金については、その融資条件により、銀行その他の場合には、その債権者と協

議する。ただし、町財政の都合により据置期間及び償還期間を短縮し、または繰上償還もしくは低利に借り換えすることができる。補正後、限度額、1 億 8,930 万。起債の方法、利率、償還の方法、補正前に同じでございます。

次の 8 ページから事項別明細ということになります。こちらについては、まず歳入のほうについて主なものを私のほうから説明をさせていただければというふうに思います。

10 ページをお開きいただければと思います。1 款町税、1 項町民税、1 目個人ということで、今回 1,750 万円の増額となっております。これは、当初見込みに対しまして営業所得の若干の減が見られるものの、給与所得、譲渡所得、退職所得における増加が主な要因となっているところでございます。また、その下の 2 目法人でございますけれども、こちらにつきましても 1,431 万 5,000 円の増額となっております。これにつきましては、大型製造業の法人税割の増と法人区分変更による均等割額の減、それぞれございますけれども、結果としてこういった形で増加要因ということでございます。

それから、その下でございます。1 款町税、2 項固定資産税、1 目固定資産税で 1,700 万の増額となっております。これにつきましては、償却資産において、比較的大きな事業所の数社において大きな投資をなされたことにより当初見込みを上回ったことによるものでございます。

続きまして、ページをめくっていただきまして、11 ページをごらんいただければというふうに思います。一番上の 9 款地方交付税、1 項地方交付税、1 目地方交付税で、減額の 1,456 万 1,000 円というふうになっております。これは、普通交付税の額の確定による減額でございます。これにつきましては、当初予算編成時における基準財政収入額の見込みが少々少なかったことによるものでございます。

それから、同じ 11 ページの 4 つ目のところ、13 款国庫支出金、2 項国庫補助金、1 目総務費国庫補助金のところがございますけれども、説明欄に 2 行ございます。まず、1 行目の社会保障・税番号システム整備費補助金 744 万円でございますけれども、これは、もう御承知のとおり国が進める女性活躍推進の視点に立った制度の整備ということで、住民基本台帳法施行令が改正されたことに伴いまして、住民票及びマイナンバーカードにおいて旧姓の併記を可能とするためのシステム改修に要する費用として国庫補助で 100% を交付されるというものでございます。

それから、その下の行の先導的官民連携支援事業補助金、減額の 1,300 万でございますけれども、これにつきましては、7 月の補正の段階で 1,300 万の予算を計上させていただいておりました。国土交通省の 100% 補助による事業に応募しますということで御説明をさせていただき、御提案をさせていただいておりましたけれども、今回、その選考から漏れたということでございまして、予算の減額をさせていただいているところでございます。

なお、この官民連携による取り組みにつきましては、国交省より一定の評価を受けておりました。国交省が委託するコンサルタントを派遣する形で本町の支援を行うという地域プラットフォーム形成支援という事業で採択を受けたところでございます。今後は、国交省が委託するコンサルの支援を受けながら事業化へ向けての検討を進め、進捗状況につきましては議会にも報告をさせていただければというふうに考えているところでございます。

それから、ページ移りまして、12 ページでございます。中ほどの 14 款県支出金、2 項県補助金でございます。1 目の総務費県補助金でございます。180 万というのがございます。この長崎県電源立地地域対策補助金 10 分の 10 というふうに書いてありますけれども、これにつきましては九州電力の松浦火力発電所 2 号機において、平成 13 年度から 15 年度までは工事が行われておりましたけれども、平成 16 年度以降工事は中断しておりました。その工事が平成 28 年 1 月に再開されたことに伴い、本町に交付されるべき 3,000 万という交付金がございますけれども、既にもう 2,820 万を交付を受けておりましたので、差し引きの残額 180 万が交付されるものでございます。なお、平成 31 年 12 月に当該発電所の運転開始が予定されているところでございます。

続きまして、同じところの 8 目災害復旧費県補助金でございますけれども、先ほど繰越明許費のところ御説明をさせていただいた災害復旧費にかかる補助金が 2,000 万ということで、この説明欄の 2 行目に上がっているところでございます。

続きまして、1 枚めくっていただきまして、13 ページでございます。13 ページの上のところ、17 款繰入金、2 項基金繰入金、5 目財政調整基金繰入金、減額の 4,000 万としておりますけれども、これにつきましては、今回の補正予算を編成していく中での調整というふうな形で財政調整基金の繰り入れを減額をさせていただいているところでございます。

それから、またページ変わります。14 ページになりますけれども、20 款町債、1 項町債、1 目臨時財政対策債ですけれども、減額の 1,070 万円でございます。先ほどの地方債のところまで上がってきた件でございます。それから、3 目総務債、説明のところに緊急防災・減災事業債、防災行政無線局等増設事業ということで 630 万と上げておりますけれども、これにつきましては 7 月の補正において 1,320 万ということで歳出側で予算を計上させていただいております。その際の説明で、浜迎地区へのパンザマストの増設工事ということで、もちろん一部パンザマストの基礎の撤去工事というのをおわせて予算を計上しておりますけれども、今回協議を進めていく中で、増設工事につきましては緊急防災・減災事業債の充当が可能ということでございましたので、増設分につきましては、630 万という予算になりますが、これに起債を充当していくものでございます。100%の充当率で、70%の交付税が措置をされるというふうなものでございます。歳出予算については、消防費のほうで計上させていただいております。

以上が、歳入の主なものということになります。

ページをおめくりいただきまして、歳出側につきましては、それぞれ各課より主なものを御説明をさせていただければと思いますが、まず企画財政課のほうから御説明をさせていただきます。

17 ページをごらんいただければと思います。17 ページの 2 款総務費、1 項総務管理費、3 目財産管理費のところの委託料のところに、説明書きで、町有地測量業務委託料、建物解体設計業務委託料、町有地造成工事設計業務委託料というふうにして書いてございます。これにつきましては、旧診療所、旧里公民館、旧第一保育所にかかるもの、旧国鉄寮跡地にかかるものとしてそれぞれ予算を計上させていただいているところでございます。なお、この 3 点目の造成工事につきましては、現在先方と調整中でありまして、現時点ではこのような形で予算を計上させていただいているところでございます。

それから、その下の 5 目広報防災費でございますけれども、15 節工事請負費で減額の 166 万 3,000 円というふうにして上げております。先ほど緊急防災・減災事業債のところでも御説明をさせていただきましたけれども、パンザマストの設置増設工事が緊急防災・減災事業債が充当できるというふうなことでございましたので、消防費のほうで予算を計上しておりますので、その組み替えという形をとらせていただいているところでございます。

6 目企画費の委託料、減額の 1,300 万につきましては、先ほど歳入のところ御説明をしたところでございます。

それから、18 ページでございます。13 目の地域おこし協力隊事業費で 300 万ほど予算を計上させていただいております。御存じのとおり、現在 4 名の地域おこし協力隊を受け入れております。そのうちの 2 名は新規就農を目的とした形で受け入れていただいているところでございます。今回も新規就農を目的としての 2 名の受け入れに向けて事務を進めてまいりたいというふうにご考えているところでございます。ただ、まことに残念ではございましたけれども、今現在 2 名の新規就農を目的として予定として入ってきている協力隊のうち 1 名が、ちょっと家族の都合により一旦実家に戻るということになりましたので、退任という形に、9 月末をもってなっております。この場をもって御報告をさせていただきたいというふうに思います。

それから、34 ページでございます。13 款諸支出金、1 項基金費、1 目財政調整基金費、25 節

積立金で 1 億 640 万 5,000 円を上げております。これにつきましては、地方財政法第 7 条の規定により平成 28 年度決算による剰余金の 2 分の 1 を下回らない額を積み立てるということになっておりますので、その積み立てということでございます。

以上で終わります。

議 長（淡田 邦夫 君）

各課長から説明があれば許可します。総務課長。

総務課長（川内野 勉 君）

すいません、15 ページをお願いします。2 款総務費、1 項総務管理費、1 目一般管理費でございます。人件費等につきましては人事異動等が行われておりますので、その関連でございます。11 節需用費の消耗品費の 130 万でございます。この分につきましては、職員章を 150 個分でございます。それと、修繕料につきましては、庁舎 1 階ロビーの LED 化していない部分がございますので、残りの部分と、それと自家発電機のオイル漏れ等が発生してございましたので、その修繕料でございます。その下の 15 節工事請負費でございます。850 万円です。昨年度、本庁舎のトイレの改修工事を行いましたけれども、ことは別館の 1、2 階のトイレの改修工事を行いたいと思ひ、計上しております。

次のページをお願いいたします。3 目財産管理費の中の 12 節でございます。一番下の町有地除草等作業委託料ということで上がっておりますが、この分につきましては、役場裏の駐車場、南側及び東側の樹木の伐採経費でございます。

18 ページでございます。電子計算費の 13 節委託料 806 万 5,000 円、ソフトメンテナンス委託料でございます。先ほど、歳入のほうで総務費補助金、社会福祉費補助金でそれぞれ補助金があったおりましたが、その充当先になっております。中身は、法制度改正に伴いますもので、社会保障税番号制度及び障害者関係分のソフトメンテナンス委託料でございます。

次に、29 ページをお願いいたします。消防費でございます。9 款消防費、1 項消防費、2 目非常備消防費、需用費の 197 万 1,000 円でございます。この分につきましては、現在、消防団員は 160 人でございます。その 160 人の消防団の活動服の更新を行いたいということで、29 年度と 30 年度で実施したいと考えております。本年度におきましては、43 名分の予算をここに計上しております。来年度人数が変わらなければ 71 名分というふうなことになります。

次の 3 目の消防施設費でございます。これが、真申地区にございまして、防火水槽の解体工事でございます。口石免の 1731-5 というところで借地をしてございまして、防火水槽を建設してございましたが、所有者の事情により、今回、建築より 45 年たっておりますけれども、耐用年数よりも 5 年早く解体するということを決めましたので予算を計上しております。水利につきましては、近くに消火栓等もございまして問題ないというふうと考えております。

以上です。

議 長（淡田 邦夫 君）

ほかに。建設課長。

建設課長（山本 勝憲 君）

すいません、28 ページをお願いいたします。8 款土木費、1 目土木総務費のほうの、先ほど財政のほうからも説明がございましたけど、公用車の入れかえを考えてございまして、公用車リース料ということで 19 万 5,000 円、こちらのほうが 2 か月分の 2 台分ということで、84 か月でリースしたいということで考えております。それに伴いまして、27 ページの役務費と ETC カード発行手数料とか自動車損害共済保険料がそれに伴って計上させていただいている分でご

ございます。

続きまして、2 目の道路新設改良費 1,830 万でございますが、このうちその他財源ということで 130 万、財源内訳のほうにございますが、こちらは 13 ページのほうにございますけど、雑入のところにございます、水道事業が昨年、28 年度に配水管を実施しておりますので、その関係で路面復旧が必要でございますが、うちのほうで一括して同じ路線ですので、道路改良の一括路線でございますので、舗装工事もうちのほうで発注してその負担金を 130 万ということで水道事業会計のほうからいただく分でございます。

続きまして、すいません、33 ページをお願いいたします。3 目の 29 年災河川等災害復旧費でございます。里千本公園線道路災害復旧工事でございますが、こちらにつきましては昨年工事を実施しまして、繰越でことしの 6 月 30 日に終わっておりますけど、7 月のまた大雨で再度被災いたしまして、1 年未済に被災したということで、再度災害復旧で実施するものでございます。予定といたしましては、査定が 10 月のほうにございますので、2 月中旬の完成を目指しております。

以上でございます。

議 長（淡田 邦夫 君）

保険環境課長。

保険環境課長（川崎 順二 君）

すいません、予算書 23 ページをお開きください。この分、下の段の 4 款 1 項 1 目保健衛生総務費でございますが、人件費の分につきましては人事異動に伴うものでございます。

次に、24 ページをお願いします。4 款 1 項 6 目健康相談センター施設管理費、これにつきましては、育児休業保健師 1 名がおりますので、その分に伴う減額でございます。

次に、下の段の 4 款 2 項 2 目塵芥処理費でございますが、この分の人件費につきましては平成 28 年度に県への派遣職員がおりまして、その職員分の人件費についてはこの目に計上したとでございます。平成 29 年度当初におきましても、そのまま計上しておりましたので、その配属先が決まったということで減額となっております。

次に、11 節需用費でございます。修繕料として 2,636 万 9,000 円増額をさせていただいております。これにつきましては、クリーンセンターの修繕に伴うものでございますが、平成 29 年度整備計画分として計上を予定しておりましたけれども、当初予算につきましては前年同額で計上させていただいております。年度当初に、本年度全体の修繕についての実施設計を行うということで実施しておりますので、その結果を受けての補正予算計上ということで今回計上させていただいております。

それから、その下の 13 節委託料、炉内等清掃業務委託料 142 万 3,000 円の増額でございますが、これにつきましては、施設の正常な機能を維持するため、排ガス処理施設等の炉内に堆積しましたばい塵を除去するために行うものでございまして、二月に 1 回の清掃として 3 回分を計上させていただいております。

その下の 18 節備品購入費でございます。ごみボックスとして 42 万 3,000 円増額をさせていただいておりますが、これについては町内各ごみステーションに設置します、ごみボックス 5 基分を計上させていただいております。

以上です。

議 長（淡田 邦夫 君）

産業経済課長。

産業経済課長兼農業委員会事務局長（大平 弘明 君）

ページのほう25ページをお願いいたします。6款農林水産業費、1項農業費、4目農業総務費でございます。この中の9節旅費につきましては、昨年度から計画をされています県内の町で「町イチ！村イチ！2017」というのが東京のほうで開催をされる予定になっております。財源の内訳のほうでその他のほうに22万5,000円ございますが、歳入13ページの19款諸収入のほうに市町村振興共同事業助成金として22万5,000円が計上されておりまして、こちらのほうに充当をいたしております。そのほか、「新農業人フェア」ということで、東京会場、大阪会場、福岡会場のほうでそれぞれ今後実施予定がされておりますので、そちらにつきましての旅費のほうを計上させていただいております。72万7,000円になります。

それから、次のページ、26ページをお願いいたします。5目農業振興費になります。こちらのほうの、13節委託料になります、17万9,000円ですけども、こちらのほうは、現在委託をしております分にオペレーター分の社会保険料を追加補正をさせていただいております。

続きまして、8目農地費でございます。11節需用費1,300万、修繕料になります。こちらのほうにつきましては、大新田の排水機場直流電源装置の取りかえ修繕ということになります。こちらのほう経年劣化をしております、部品等の製造及び供給のほうが既に終了しているということで、現在も電圧電流のほうが不安定な状況になっており、安定した電気の供給ができないというふうな状況になっております。こちらのほうは、排水機場のポンプ制御を行う変電機器ということで大変重要な装置になっておりますので、万が一故障した場合はポンプが稼働しないと、こういったことが懸念されますので、今回の補正によりまして修繕のほうをさせていただきたいというふうに考えております。また、通報装置につきましても、同様に、現在、緊急の場合の通報が1か所のみしか行かないような状況で異常な状況となっております。こちらのほうにつきましても早急に対応する必要がございますので、今回の補正予算により取りかえ修繕のほうをさせていただきたいということで計上をさせていただいております。

続きまして、ページのほうが33ページになります。11款災害復旧費、2項農林水産施設災害復旧費、2目29年災農地災害復旧費及び3目29年災農業用施設災害復旧費でございます。こちらのほう、先ほど企画財政課長のほうからも御説明がございましたが、まずこちらのほうは平成29年7月5日から9日までの梅雨前線により農地、田のほうが2か所、それから農業施設、頭首工のほうが1か所、被災をしております。24時間の最大雨量が101ミリ、1時間の最大雨量が28ミリということで、場所につきましては、八口免川添地区の頭首工、長さが35メートルの被災を受けております。それから、栗林免字松野尾地区の田、長さが4.5メートル、高さが2.9メートル、それから口石免字立岩地区の田、長さが8.2、高さが4.3メートルの被災を受けております。こちらのほうの復旧工事ということで計上させていただいております。

よろしく申し上げます。

議 長（淡田 邦夫 君）

住民福祉課長。

住民福祉課長（藤永 大治 君）

それでは、19ページをお願いいたします。19ページ、14目諸費でございますけれども、住民福祉課関連では、国、県の国庫負担金、補助金の返還でございますけれども、19ページの下から2つ目、介護保険低所得者特別対策事業費県補助金返還金から、次の21ページめくっていただいて、児童手当交付金国庫負担金返還金までが住民福祉課関連の国、県、負担、補助の返還金でございます。実績報告に基づく返還でございます。

22ページをお願いいたします。22ページ、3款民生費、1項社会福祉費、1目社会福祉総務費、28節繰出金58万1,000円でございますけれども、介護保険特別会計への繰出金でございま

す。のうち、地域支援事業の人件費分ということで4万1,000円、それから一般事務費の繰出金ということで、システム改修分54万円、計58万1,000円の繰り出しを計上させていただいております。

続いて、23ページをお願いいたします。23ページ、上段、3目児童福祉施設費、19節負担金補助及び交付金177万円でございますけれども、障がい児保育事業補助金ということで、町内の民間保育園1か所への補助を計上をさせていただいております。

以上でございます。

議 長（淡田 邦夫 君）

教育次長。

教育次長（水本 淳一 君）

教育委員会から新規事業分、2件分を説明させていただきたいと思います。

ページが29ページ、30ページにまたがる10款教育費、1項教育総務費、2目事務局費の中の19節、次のページですけれども、負担金補助及び交付金の中で、羽ばたけ若者人材育成奨学金を計上させていただいております。今回は、新規事業ということでこの奨学金を計上させていただいておりますけれども、当該事業につきましては第6次総合計画、後期計画の戦略目標の中に掲げられておるものでございます。平成28年度の長崎県の平均収入が約400万円ということで、国公立大学の自宅外通学の場合は4年間で約1,000万の支出があるということで、大きな負担となっているところでございます。そこで、国立大学入学金が約30万円ということで定められておりますので、今回、その奨学金の額の根拠といたしまして30万円と定め、対象人員は3名の今回は90万円を上げさせていただいております。

選定条件としましては、町内の小中学校に3年以上在籍していること、あるいは成績が優秀であること、また保護者の家庭内収入が日本学生支援機構で定められております、2種の基準以内ということで定めております。実施期間につきましては、平成29年度から3年間ということで、総合戦略に掲げております31年度においては総合戦略推進会議の中で実施検証を行うということにしておるところでございます。

続きまして、31ページでございます。10款教育費、4項幼稚園費、1目幼稚園管理費、13節委託料でございます。幼稚園・公民館別館解体工事実施設計業務委託料でございます。町立幼稚園は、今年度をもって終了することになっております。現施設におきましては、御承知のとおり耐震強度が基準を満たしていないため、廃園後は、廃園後の施設の管理、安全性の確保からできる限り早い時期に解体工事に取り組みたいというふうに考えておるところでございます。

そこで、教育委員会といたしましては、今回の平成29年9月補正予算におきまして解体工事の実施設計を行いたく、予算を計上させていただいているところでございます。また、解体工事につきましては、平成30年度を含めた以降に計画を考えておるところでございます。

以上でございます。

議 長（淡田 邦夫 君）

ほかにございませんでしょうか。

（「なし。」の声あり）

質疑に入る前に、5分間ほど休憩したいと思います。11時から再開したいと思いますので。

（10時50分 休憩）

（11時01分 再開）

議 長（淡田 邦夫 君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

これから質疑を行います。3番。

3 番（永田 勝美 君）

補正予算を見させていただいて、幾つか基本的なことになろうかと思いますが、質疑させていただきたいと思います。

1つは、歳出の部分の繰越金の分について、考え方ですけども、いわゆる、今回、歳入の分で繰越があった分については前年度決算の確定によることで繰越があったというふうに見ればよいのか。ページでいうと、すいません、13ページの18款繰越金1目、2億1,200万という繰越金が歳入に上がっております。このいわゆる繰越金というものは、性格的には前年度予算の残りっていいですか、前年度から繰越ということで考えてよいのかということが1件。

2点目は、町税収入が約4.5%ほど上方修正といいますか、町税が増えたということになっておりますが、先ほど何点かお話がありましたけれども、説明がありましたが、全体として町税収入については増加傾向にあるのか、傾向的にどうなのかということについてお話しいただきたいことと、その要因について要因の分析がされておれば少し解説をいただければというふうに思います。

12ページですけれども、電源立地対策補助金の件ですけれども、いわゆる先般来質問いたしました、原発等の避難計画策定やそういったものにかかる費用というのは、どういう項目で上がってくるんだろうかということについてお伺いしたい。

同じく12ページ、最後ですけれども、一番下の財産収入、物品売払収入の中に、間伐材売払収入が増加しているわけですけれども、間伐材っていうのは、いわゆる町有山林の間伐材ということかなと思いますが、この間伐材については最近高値が続いているという報道等もありますけれども、ここら辺の動向についてお話しいただければと思います。

以上です。

議 長（淡田 邦夫 君）

企画財政課長。

企画財政課長（今道 晋次 君）

まず、1点目の御質問でございます。13ページの繰越金2億1,280万8,000円というのがございます。これについては、今、議員御質問のとおりでございます。平成28年の決算剰余金ということになります。

以上でございます。

議 長（淡田 邦夫 君）

総務課長。

総務課長（川内野 勉 君）

電源立地交付金と避難計画の作成費用についてというふうな御質問だったかと思いますが、地域防災計画につきましては単費というふうなことで考えて進めております。それと、電源立地交付金に対してそのような使途があるかどうかは、私どもの、総務の範疇ではございませんので、そこはまた企画のほうにお尋ねいただければと思っております。

以上です。

議 長（淡田 邦夫 君）
税務課長。

税務課長（松本 孝雄 君）

全体的に税収が増加傾向であるかとの御質問ですけれども、若干、今回の補正で増額補正となっておりますが、なかなか右肩上がりが増加をしているというところまでの分析が難しい。やはり、当初予算時に一応見積もりをして予算を計上するわけですが、結果、個人であれば収入申告の状況、法人であれば決算の状況等に大きく、特に法人については決算状況に大きく左右されまして、法人税割がかなり増減すると。これはもう会社の営業状況等によるものでございますので、なかなかこれも予測がつかないところであります。

それと、今回の固定資産税の増額分については、主に償却資産が増加要因であったということで、当然、減価償却ですから、新たな投資がなければ課税標準となるものは減ってまいりますので、なかなか増加ということになりませんで、今回の分は今年度数件大きな投資がなされた事業所があったということで、結果、このような数字が出ているということで考えております。

右肩上がりが増加するような要因等がつかめるような状況であれば、それなりの御説明がつくかと思っておりますけれども、現状ではなかなかそこまでの要因の分析には至っていないということで御理解をいただきたいと思っております。

議 長（淡田 邦夫 君）
あと、間伐材。産業経済課長。

産業経済課長兼農業委員会事務局長（大平 弘明 君）

議員の御質問でございますけれども、現在、ちょっと手持ちのほうは28年度のほうの資料しか持っておりません。間伐材の単価としましては、1ヘクタール当たり39万6,942円ということになっております。今回の分につきましては、それに雑木の1.1ヘクタール、合計7.89ヘクタールについての金額となっております。

費用としましては、724万4,242円に対し、収益部分ということで森林組合等の支払い額が777万2,416円、これを差し引きまして52万8,174円ということで、今回の補正予算のほうに計上をさせていただいております。

よろしく申し上げます。

議 長（淡田 邦夫 君）
3番。

3 番（永田 勝美 君）

町税収入について、右肩上がりの状況ではないというのは理解できました。であれば、いわゆる住民税といいますか、個人が支払う税金が一定額上がっているということについては、納税者数が増えたのかということを確認したいと思っております。

それから、いわゆる避難計画等の費用については、町単独で予算は組まないといけないと。それについての補助金等はないというふうに理解してよいのか。要するに、原発が動いていればそれだけ要らん費用がかかるというふうに考えてよいのかというのが2点目。

以上です。

議 長（淡田 邦夫 君）

税務課長。

税務課長（松本 孝雄 君）

納税者数が増えたかどうかの御質問ですけれども、一応、統計的にいつも毎年調査される課税状況調査等の動向からいきますと、今年度は昨年度に比較いたしますと 1%ほどの件数的には増加となっている状況でございます。これをもって、増加していくのではないかとというところの想定がしにくいということで御理解いただきたいと思っております。

議 長（淡田 邦夫 君）

総務課長。

総務課長（川内野 勉 君）

本町における地域防災計画につきましては、前回もお話ししましたとおり、大規模災害に対応したものにはなっておりません。新しく見直す計画を立てるにして、どういった項目でそういったものを捉えていくかということもまだ決めておりませんが、原発につきましては、避難計画を作成するに当たり、基本的には今回の訓練でも情報は入ってきています。情報は入ってきていますけれども、具体的な訓練はありませんし、具体的に逃げる場所も定めてはございません。そこで、私たちがつくるべき体制というのは、通常の災害と同じように、入ってきた情報を住民の方に伝えていくというふうなことでは変わらない部分じゃないかというふうに捉えて、この原発の避難計画も、どこまでできるかはわかりませんが、そういった部分で、通常の災害と同じような感覚で整備していく必要があるのではないかとというふうに考えています。

新たな費用がかかるのか、かからないのかということにつきましては、まだわかりませんが、あくまでも現在は通常分の災害と同じような感覚で対応したいというふうに考えております。

議 長（淡田 邦夫 君）

産業経済課長。

産業経済課長兼農業委員会事務局長（大平 弘明 君）

すいません、先ほどの答弁の中で、私のほう、間伐材のほうの単価のほうをお知らせをしましたが、木材の収入のほうになります。ヒノキのほうは、平米当たり 9,318円、杉のほうは平米当たり 1万510円ということになっております。これは、木材収入ということになっております。

以上です。

議 長（淡田 邦夫 君）

3 番。

3 番（永田 勝美 君）

原発事故に対する対応としては、通常の災害と同様の計画という、今の位置づけとしてはそうなっているということです。

内容的には、通常の災害ではないというふうに私も思いますし、そういう点で、現状のま

までよいというふうにお考えではないと思うんですけれども、実際にその原発が動こうとしているこういう時期でありますから、改めて、やはり町民に対してきちんと説明ができるものというのが求められているのではないかということを書いておきたいと思ひます。

特に御意見があればお聞きしたいと思ひますが、町長、いかがでしょうか。

議 長（淡田 邦夫 君）

町長。

町 長（古庄 剛 君）

先ほど、地域防災計画の話は今、総務課長がいたしました。私どもも、この原発がということで、地域防災計画には入っていないわけです。ただし、やはり皆さんがわかっておられるように、放射能というのがちょっと目に見えない形で来るものですから、それをどうするのかというのはなかなか我々も厳しいわけでごさいますので、それについてどう対処できるのかというのは今後考えていかなきゃならないと思ひていますので、どうぞよろしくお願ひをいたします。

議 長（淡田 邦夫 君）

ほかにございませんでしょうか。7 番。

7 番（平田 康範 君）

それでは、私のほうから 1 点、確認の意味で質問いたしたいと思ひますが、18 ページ、総務費の地域おこし協力隊事業費、これにつきましてお尋ねをいたします。

まず、この地域おこし協力隊の報酬、これにつきましては、年度当初、892 万円計上されております。それから、使用料及び賃借料の中で、住宅の借上料が当初予算で 218 万 4,000 円計上されております。今、先ほどお聞きしますように、1 名、家庭の事情で退任されたということでごさいますけれども、今回上がっております報酬、これにつきましては何か月分計上されておるのか。ということは、いつからこの 2 名の方が採用されるのか。それから、それに伴います住宅借上料もそうでごさいますけれども、そういった形で、いつごろこの 2 名の方がこちらのほうに就任されるのかということをお尋ねをいたしておきたいと思ひます。

議 長（淡田 邦 夫君）

企画財政課長。

企画財政課長（今道 晋次 君）

すいません、先ほど御説明する際に漏れておりました。一応、12 月 1 日採用を目標に事務を進めてまいりたいというふうにごさいますので、予算は一応 4 か月分を計上してあります。28 年度にも同じように取り組んでまいりましたが、結果として何か月か遅れてしまったという経緯がございますので、なかなか思うように新規就農というふうな形での募集が進むかどうかというところは多少ありますけれども、現時点での目標としては 12 月 1 日からという形で予算を計上させていただいてあります。

議 長（淡田 邦夫 君）

7 番。

7 番（平田 康範 君）

それでしたら、今回退任された方の報酬も年度当初予定で組んであったわけですが、この退任された方の報酬と今回計上された報酬、これは加味しているということでございますか。

議 長（淡田 邦夫 君）
企画財政課長。

企画財政課長（今道 晋次 君）

すいません、今回の補正は丸々追加分ということになります。今回の補正に間に合っておりません。もう御家庭の事情で急きょ戻らないといけないということになられたものですから、予算としては、結果としては、この今回計上させていただく丸々12月からの2名分と、別途、今回の退任された方の分は残った状態になっているというふうなことになります。

以上でございます。

議 長（淡田 邦夫 君）
ほかにございませんでしょうか。2番。

2 番（浜野 亘 君）

17ページの3目財産管理費、13節委託料の1,224万1,000円の分ですが、先ほど企画財政課の課長からと総務課長から説明があったんですけども、7月の補正でこの測量業務と鑑定料について補正が150万ありましたけども、それに、金額はわからないので、その分も含まれているというようなことで一般質問で回答があったかと思うんです。建物の解体設計業務委託料は、幼稚園の解体費設計業務が出ておりますので大まかに出るんですけども、この中では町有地造成工事設計業務委託料というのが高いのかな。1,200万もかかるような事業なのかなということちょっと思っておりますけども。

町長にお尋ねをしたいんですが、一般質問をしたときに、総合福祉センター前、図書館の駐車場の横の広場を天然調味料工場さんの社員寮として譲渡されるようなお話でしたけど、場所はもう変わっていないということでよろしいのでしょうか。私が質問したのが水曜日でしたので4日間あったかと思うんですけど、御検討をされたのかなと思って確認をしたいと思います。よろしくお願いします。

議 長（淡田 邦夫 君）
町長。

町 長（古庄 剛 君）
場所は、総務厚生委員会で説明したとおり変わっていません。

議 長（淡田 邦夫 君）
いいですか。ほかにございませんでしょうか。8番。

8 番（須藤 敏規 君）

それでは、4点ほどお尋ねをいたします。

7ページのほうに地方債の補正がございました。緊急防災・減災事業債の630万ほど。歳出のほうをちょっと見てみまして、広報防災費に同じ名称がございましたので、財源内訳でそこが計上されていない、一般財源が落とされてあったものですから、どういう経過か説明をお願い

いしたいと思えます。

それから、17ページの町有地の測量業務委託料、建物解体設計業務委託料、町有地造成工事設計業務委託料ということなんですが、まず町有地の測量業務は全体としての測量をなさるから可としようかなと思うんですが、3番目の町有地の造成工事設計業務委託料については、先ほど企画財政課長のお話では調整中ということがございましたので、この予算につきましては、私個人は保留をしたい、または後で大体9月以降、総務厚生委員会ではっきりしたところで執行をお願いしたいという私なりの考えを持っております。

それから、建物解体設計業務委託料の旧保育所、旧里公民館、診療所ですか。この件につきましては、公民館については多分町内会が3割負担というので、私のいる町内会ですけども、負担した経過がございますので、そこら辺の話の3割負担について地元と調整はとれているのかということですか。

それで、解体工事の設計をした場合、3月末に終われば、これは行政財産として各課で管理していくのかということを確認しておきたいと思えます。あわせて、幼稚園の関係もそうなんですけども、行政財産として管理していくのかということですか。

教育次長のお話では、危険であるので安全性のために早く解体したいということでしたけども、御存じのように、あそこは中心市街地の真ん中にある建物でございまして、安全面とかそういうとでどのようにお考えなのか。やりやり大きな重機が入ってきて工事をするわけですけども、そういうことで、担当として、設計で仕上がって委託料を組んであるはずですから、何百万かですね。

あとは、御存じのように、中に危険なアスベストはないという議会の報告、議事録の報告におっしゃっていますけども。それと、あと工事産廃が、表土なんかがいっぱいあります。そこら辺の表土は、詰めておられないでしょうけど、剥ぎ取ってするのか。夜間工事はするのか。まず、なさらないと思うんですけど、そこら辺の産経で説明なさった各、整地はどのようにするのか。通常でしたら、水まき散布して、砂利を埋めたり砂を入れたり、転圧とかいろいろあります。一般の宅地、解体して、近所見て回りましたら、泥が水で流れたりいろいろしたところがあります。水たまりになったとこ。びしっと整地して砂まいて転圧したとかいろいろありますけど、どの程度で整地をなさるおつもりで発注したいのか、そこら辺をお尋ねをしておきたいと思えます。

議 長（淡田 邦夫 君）

企画財政課長。

企画財政課長（今道 晋次 君）

まず、1点目ですけれども、議員御指摘のとおりでございまして、例えば17ページのところの7月補正では、5目広報防災費の中で予算を単独予算として計上しておりました。それが今回630万だけが29ページの9款消防費のところでの予算計上になりますので、一般財源の減額というところがちょっと見えてはきませんが、9款のほうへの組み替えの中で新たに630万が上がっているというふうな形での財源内訳になってきているのかというふうに思えます。すいません、もしちょっと的外れな回答であれば御指摘をいただければというふうに思えます。

それから、2点目の17ページにかかる分での御質問でございまして、まず町有地の造成工事につきましては、まだ先方との協議中ということでございますので、その協議が整いましたら委員会のほうに御報告をさせていただければというふうに思えます。

それから、建物解体をしていく中で、旧里公民館がございまして、これにつきましては、議員御指摘のとおり町内会の一部負担がございまして、これにつきましては、解体等にかかる費用等が出た後に地元の町内会と協議をさせていただく予定にしているところでございます。

それから、最後の、これは幼稚園も同じようなことになるのかというふうには思っておりますけれども、まだ具体的に解体後の整地の言われる仕上げにつきまして具体的に定めてはおりませんが、いずれにしても近隣に迷惑がかからないような形で、いわゆる砂ぼこりが起きないとか、そういったことも配慮しながらの整理は必要かというふうには、まず旧町立診療所等については考えているところでございます。

以上でございます。

議 長（淡田 邦夫 君）
総務課長。

総務課長（川内野 勉 君）

旧里町内会の解体の 3 割負担の件につきましては、今の集会所建設後からずっと解体する折には 3 割が必要だという話は、総務課のほうから里町内会のほうにはしておりますので、里町内会の方につきましてはその内容については御存じのものというふうに考えております。

議 長（淡田 邦夫 君）
教育次長。

教育次長（水本 淳一 君）

解体後の管理についての御質問でございました。

先日、町長のほうから答弁がありましたが、現在のところ、まだ利活用の計画が決まっております。教育委員会が行政財産として当分の間は管理を行い、土地利用計画が決定次第、その原課と調整を図りながら行政財産から普通財産のほうに移管をしたいというふうに考えておるところでございます。

それから、永田議員が以前、産業建設文教委員会のときに、御指摘がありました、アスベストの件でございますが——（私語あり）

議 長（淡田 邦夫 君）
アスベストはよか。いえ、いいですよ。それは須藤議員。

教育次長（水本 淳一 君）

あ、須藤議員からの御指摘の中でのアスベストの御質問でございますが、産業建設文教委員の中でも御指摘があつておるところでございます。この石綿を含む物の材料につきまして、文科省のほうに平成 28 年度報告した、公立幼稚園という中でゼロということで報告をさせていただいておりますが、教室や廊下、階段、トイレ、管理諸室など、児童生徒、教職員等が通常立ち入る場所及び煙突を対象とするという調査対象室というふうになっておりますので、天井内とか壁の内部とか隠れている部分につきましては、調査対象からは報告が外れておるところでございます。先般の委員会の中で御報告いたしまして説明いたしましたように、設計の中でその部分が見えたら、また工事の中で検討していきたいというふうに考えておるところでございます。

以上です。

議 長（淡田 邦夫 君）
8 番。

8 番（須藤 敏規 君）

ということは、アスベストについては設計の段階で、天井裏とかわかれば追加の補正をするということで理解しとけばいいんですね。

それから、あともう一つ、御存じのように、保育所とかいろんな建物なんかに全国自治町村会の自治会保険に入っておられると思うんですが、動産がございます。そがん動産についてはどのように考えておられるのか。幼稚園が多いだろうと思うんですけど、使えるもんが、町内会の子ども会に募集してやるとか、どのようにお考えですか。里公民館の入ったと私わからんもんですから、診療所の中もちょっとわかりませんが、まだ機械が入っているかどうか、その処分の考え方を、各施設の、どのようにお考えか、町として、お尋ねをしたいんですけど。

議 長（淡田 邦夫 君）

教育次長。

教育次長（水本 淳一 君）

幼稚園の備品につきましては、過去購入記録を見て、備品台帳を全てエクセルに移しまして、減価償却の計算をいたし、今整理をしているところでございます。写真と今チェックを合わせているところでございまして、しかるべきときに所管委員会のほうに報告をさせていただきたいと思っております。

なお、この動産につきましては、行政財産として教育委員会が管理しておりますので、今後の備品の調整につきましては、各町部局のほうと協議をしていきたいというふうに考えておるところでございます。

以上です。

議 長（淡田 邦夫 君）

総務課長。

総務課長（川内野 勉 君）

旧里公民館でございますけれど、佐々町の動産があるという感覚は持っておりませんので、中を町内会の方と一緒に見た後に検討したいというふうに思っております。

議 長（淡田 邦夫 君）

保険環境課長。

保険環境課長（川崎 順二 君）

旧診療所の中にある動産としましては、基本的に一度廃止しまして民間のほうに貸しておりますので、その際に大きな物は全部撤去等をしております。当時使っていた本当に古い機械というのが、視力の検査機械とかそういうものが若干残っている物がございましたので、それについてはもう使用することができないということで処分をしていくことになろうかと思っております。

以上です。

議 長（淡田 邦夫 君）

8 番。

8 番（須藤 敏規 君）

そういうことは、要らない動産については解体のときに処分するというお考えを持っておられるんですか。

議 長（淡田 邦夫 君）

保険環境課長。

保険環境課長（川崎 順二 君）

旧診療所の分につきましては、解体のときか、またはそれ前に処分するように、大きな機械はありませんので、小さいものが幾つかありますので、処分をしていくことになろうかというふうに思っております。

以上です。

議 長（淡田 邦夫 君）

8 番。

8 番（須藤 敏規 君）

解体のその前に処分っていうことは、職員でなさるわけですか。お金がかかる問題ですから。

議 長（淡田 邦夫 君）

町長。

町 長（古庄 剛 君）

大変申しわけございません。診療所は、須藤議員も御存じのように松村に 1 回ですね、公営でしていたのを松村耳鼻科が多分経営していたと思います。途中で経営をやめられたということで、松村耳鼻科のほうに確かめて、あとは解体のときに処分はさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

議 長（淡田 邦夫 君）

9 番。

9 番（川副 善敬 君）

確認というか、確認も含めてちょっと里公民館と診療所、保育所の解体について確認いたします。

あそこだけ、里町内会の公民館だけ現在残っております。ほかの町内会はもう建てかえたらすぐ解体しておりますけれども。それは、実は、平成15年に行財政改革特別委員会の答申の中で、あそこはすぐ、保育所と診療所と里公民館と解体するっていうことになっておりました。そして、その中で、そのときは課長やったかな、話し合っ、あそこは道路は東光寺の境内なんです、ずっと表までね。課長、総務課長、聞いとるね。あそこの道路は東光寺の境内に入っておって、道路は、それも注意しとかんばいかん。そういうことで、解体になったら、あそこが東光寺を使わせてもらわばいかんもんで、行財政改革の答申と一緒に、診療所、保育所を解体するときに里公民館も解体しようと。そうすれば費用も安くつくんじゃないかということで、全町内会の中であそこだけ残した。隣が民家です。民家も、解体することによって道路が後ろからでも来れば、東光寺のあそこは使わなくてもいいと、迷惑かけないでいいっていうことで残っておりますんで、今度解体工事するときも、その点をくれぐれも注意なさって、東光寺に迷惑がかからないように、またあそこの民家もなるべく後ろから、裏からでも通路を

つくってやるというような考慮のもとに解体して、その後どういう利用になるかわからんけれども、そういう点を考慮していただきたいと思っております。

だから、あそこだけが残っておるんです、そういう事情で。私が知つとるもので、ちょっと確認で言うとなつたほうがよかろうと思って、そういうことです。

議 長（淡田 邦夫 君）

答弁はいいですね。

9 番（川副 善敬 君）

要らない。

議 長（淡田 邦夫 君）

5 番。

5 番（阿部 豊 君）

3 点質問させてください。

1 点目、26 ページの農業振興費の農作業支援者育成サポート再生構築業務委託料の増額なんですが、ちょっと説明が僕はよく聞き取れずに、人的要因での増というようなことで伺ったんですが、業務委託をしとって増の要因がちょっと腑に落ちない点がありましたので、詳しく再度説明をしていただければと。

同じく、同じページの農地費の1,300万円の修繕料、排水機場の云々ということで内容等々については理解するんですが、金額計上が修繕料でなされているので、大きい修繕の費用になりますので、この見積もり、どのように計上されたのかなど。委託とか工事できなくていいものなのか、修繕のできるものなのか、そこら辺の、それで、果たして1,300万で足りるものなのかということも含めて危惧する点がありますので、再度詳しく説明をしていただければと。

続いて、30 ページ、羽ばたけ若者人材育成奨学金。30万円の3名ということで、その30万円、3名にされた根拠。これ、給付型の奨学金というふうに委員会の会議録を読ませていただくと、内容については理解するんですけど、申込者数によっては枠が広がるというような認識でよろしいのかということも含めて、再度詳しく御説明をしていただければと。

最後に、財政調整基金積立で、決算剰余金の2分の1を、ルール分として積み立てられたということでの御説明で理解するんですけども、昨年度の状況も見てみると、決算剰余金を積み立てて取り崩しされ、元金の積み増し自体はされていないと。実態としては、その金額は住民福祉の向上に向けた政策予算として組み込まれてきたのかなというふうな認識でいるものですから、今度の取り扱いもそのような方針でいかれるのかなど。財政調整基金含めて、基金については国のほうからも目ざとく監視されている部分があるという点も含めて、県では5%の財政調整基金の目標が適切ではと。自治体においては20%というふうな指針が示されているのは理解するんですけど、佐々町としての目標額の設定はどのようになっているのか。望ましいところがどれぐらいなのかということもわかれば、教えていただければと。

以上です。

議 長（淡田 邦夫 君）

産業経済課長。

産業経済課長兼農業委員会事務局長（大平 弘明 君）

議員御質問のまず 1 点目です。ページが 26 ページの農業振興費の農作業支援育成サポート体制構築業務委託料についてでございます。こちらのほうは、農協のほうに委託をしております。農作業の支援者、それからオペレーターということで機械等のオペレーター、この 2 名の雇用をいたしております。そのうち 1 名については社会保険等に加入があったんですけども、オペレーターの方については社会保険料等の保障がなかったということで、委託先の農協さんのほうとお話しをさせていただきまして、今回、オペレーターの方の分についての社会保険料等の計上をさせていただいているという状況でございます。

それから、次の大新田排水機場の直流電源装置についてでございます。こちらのほう、通報装置の修繕とあわせて 2 つの修繕のほうが入っております。直流電源装置につきましては、こちらのほうは受電設備の中の直流電源装置ということになりまして、またそこから今度は各ポンプのほう、それから電磁弁、電源等に電流のほうを供給しているという一連の流れの中の直流電源装置ということでございますので、修繕料ということで計上をさせていただいているような状況でございます。

費用につきましては、どうしましても受注生産ということもございまして、金額のほうはこちらのほうに計上されている 1,300 万の内枠ということになっております。よろしく願いいたします。

議 長（淡田 邦夫 君）
教育次長。

教育次長（水本 淳一 君）

羽ばたけ若者人材育成奨学金、3 名分で掛ける 30 万の 90 万円を計上させていただいております。この上げた根拠につきましては、総合戦略の事業の評価検証シートの中でこれを参照としたし、年間 3 名を対象としたときの具体的な取り組みのところで掲載されておりましたので、内部検討いたし、町部局との協議を行ったということでございます。枠を超える部分については今のところ考えておりませんが、3 か年 9 名というようなことで目標を今、定めておるところでございます。

以上です。

議 長（淡田 邦夫 君）
企画財政課長。

企画財政課長（今道 晋次 君）

財政調整基金の件でございますけれども、例えば 27 年度末、28 年度末で見たときに、議員御指摘のように、毎年、決算剰余金が出たときには地方財政法に基づいて 2 分の 1 を下回らない範囲で積み立てを行っております。27、28 で見たときには、財政調整基金は若干増加しているというのが過去の実態ではございます。

さて、財政調整基金の額でございますけれども、適正な額というのを明確に示されているわけではございませんが、現在、国のほうで各市町村も含めた地方自治体が抱える基金の残高については、指摘を受けているところございまして、それは経済財政諮問会議の民間議員の方が御指摘をなされている。その指摘をなされているのは、標準財政規模、いわゆる普通交付税でいう基準財政需要額に対してどれぐらいの比率があるのかというふうな指摘があっているようでございます。それで、特に民間議員の方が御指摘をされているのは、その金額の 2 倍を超えているところが数多くあるのではないかという話をされていますので、そういったところを見ながら基金の適正規模という話にはなっていくのかなというふうには思いますけれども。

いずれにしても、何度となく御説明をさせていただいていると思うのですが、向こう40年間の計画とはいえ、公共施設等総合管理計画の中で相当の金額の維持更新にかかる費用が発生するという御説明をさせていただいているところです。現時点では、確かに60億という大きな基金の残高にはなっておりますけれども、先ほど、すいません、先日の一般質問の中での町長答弁にもありますように、早ければとし、場合によっては今年度ということになろうかと思っておりますけれども、10か年の事業計画等を整理していきながら、基金の再編も含めて事務の処理を進めてまいりたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

議 長（淡田 邦夫 君）

5 番。

5 番（阿部 豊 君）

結局、26ページ、農作業のやつ、業務委託料ってなっていますから、発注されて、競争性を持って、これ随意契約なんですか。発注されて、変更内容の要因としてなり得るのかってところが、私自身、人的要因での業務委託についてどのような契約になっとなって、その部分が増額変更の要因になり得るのかなと、もう業務委託したわけですから、その金額で委託したわけでしょう。大きな経済的な社会変動による物価スライド等々のいろいろ要因って、法的に許せる増額要因、減額要因ありますよね。そこに合致するのかなというのが腑に落ちないという点で申し上げたんです。1点目。

それと、排水機場のやつです。これも随意契約でされるんですか。結局、内容等々については理解するんです。修繕しなければいけないし、もう緊急性もわかる。競争性と価格の適正性っていうのがどのように担保されて計上されているのかなという点が理解できませんっていうことで、御説明をいただきたいというような質問をしていますので、そのポイントでの答弁をお願いしたい。

それと、奨学金は、広がる可能性はあるっていうことやったですか、結局。申込者数によって枠は広がる可能性があるのかなというポイントを聞きたい。

基金については理解しました。今年度、その基金のまた見直し等々考えた、再編をしていくというような方向性も答弁いただきましたので、3点目については再度の質問はいたしません。

議 長（淡田 邦夫 君）

産業経済課長。

産業経済課長兼農業委員会事務局長（大平 弘明 君）

議員御質問の件についてでございますけれども、確かに委託料ということで契約を結ばさせていただいております。これ農協のほうと、結ばさせていただいておりますが、内容につきましては、現在1名の方が、国民健康保険――

5 番（阿部 豊 君）

いや、内容は分かります。増額変更、優先状況の契約になってるんですかというところが業務委託に――

産業経済課長兼農業委員会事務局長（大平 弘明 君）

契約といたしましては、現在、この1名の方について、内容の変更させていただきたいというふうに考えております。町のほうとしましては、内容の変更をさせていただきたいというふ

うに考えております。それに伴いましての委託料の増額の変更ということになります。

こちらのほうは、農援隊ということで、各農家さんのほうに行きまして活動されている費用になりますが、1名のオペレーターの方につきましては、農協との折半をさせていただいておりますので、その分につきましては社会保険のほうに加入されていないということもございます。労働環境の整備ということで、町のほうとしましては、そこを均衡を保つために委託料の変更をさせていただきたいというふうに考えておまして、それに伴う委託料の増額変更ということでの予算を今回の補正予算でお願いしているところであります。

続きまして、大新田の排水機場の直流電源装置でございますけども、こちらにつきましては、議員御指摘のとおり競争性を必要とする事項だというふうに考えております。入札のほうで行いたいということで計上をさせていただいております。よろしく申し上げます。

議 長（淡田 邦夫 君）
教育長。

教 育 長（黒川 雅孝 君）

羽ばたけの奨学金のことでございますけれど、非常に、何名かというのは難しいところがございますが、現時点では3名、3年間の実証検証等を踏まえて、また見直し等があるかと思っておりますが、現時点では3名というふうに考えておるところでございます。

以上です。

議 長（淡田 邦夫 君）
ほかに。1番。

1 番（永安 文男 君）

すいません、11ページ、歳入のほうで、国庫支出金、2項国庫補助金、1目総務費国庫補助金で、総務費補助金の項目の中で先導的官民連携支援事業補助金1,300万の減額ということで、7月の補正で1,300万円計上したが、今回選考から漏れたというようなお話で減額されておりますけれども、これにつきましては採択されるかどうかというのがあるという話は伺っておったんですけど、その中でサンビレッジ横の町有地の開発関係も、この中で何とか検討したいというようなお話がございまして、今後は、国交省が委託する地域プラットフォーム事業で行うという御説明がありましたけど、その部分の内容的なことが見えませんので、何か補足的に説明をいただければと思います。よろしく申し上げます。

議 長（淡田 邦夫 君）
企画財政課長。

企画財政課長（今道 晋次 君）

申しわけございません。今、御質問の件ですけれども、今回、1,300万ということで国交省のほうに手を挙げ、こちらのほうで自前で契約をして、そのコンサルと一緒に枠組みを検討できればというふうに考えておりましたけれども、結果としては国交省のほうの採択から漏れて、国交省のほうからは支援いただくのが地域プラットフォーム形成支援ということになっております。

この地域プラットフォーム形成支援と先導的官民連携支援事業は一体的な感じのところもありまして、基本的には官民連携で事業を進めていく上で、熟度のある一定のその熟度が整ってからいろんな事業を展開していくということになるかと思うんですけども、まずこの地域プ

プラットフォーム形成支援については、官と民の連携の熟度というのを基本的には今年度ということで御支援をいただくわけですが、今年度の御支援をいただく中で、その熟度というのをしっかりと上げていきなさいというような支援というふうなことで、御理解をいただくというのではないかとこのように思います。

先の全員協議会なり等々で、資料は一応1,300万で国のほうに応募をする内容はこういった内容ですというのは、事前に御説明をさせていただいたかと思っておりますけれども、そういった官と民の連携というのが今後の取り組みとして、相手方があることでもございますので、そこが国交省が委託をするコンサルのお力をいただきながら、その枠組みで今後の事業展開が可能なのかということ、今回探っていくということになるかというふうに思います。

したがって、いわゆる佐々町を初めとした、あと民間、それとそういったところを支援いただく関係機関等々による会議を設けながら、そういったところで具体的な事業展開が果たして可能なのか。いわゆる民が入ってきますので、事業の採算性というのも当然出てこようかと思っておりますので、事業の中身で、いわゆる採算性で、実際に事業を組み立てていく上での国の補助金なり、そういったものも含めてどういったものが活用できるのか、どこまでの議論ができていくかはわかりませんが、現時点で、今年度はもうあと半年しかありませんので、何回の会議ができるかわかりませんが、そういったところを支援すると。国自体は、この地域プラットフォーム形成支援はマックスで3年間までは支援をしますという話を、国はされておりますので、3年間いくかどうかかわかりませんが、今年度の事業の熟度によっては、新たな支援というのも国交省とお話をしながら出ていくのかなと考えております。私どもも初めて取り組む事業でございますので、少々手探りな面もありますけれども、国交省が委託をするコンサルの支援を受けながら、組み立てをしてまいりたいというふうに思っております。

また、具体的に少し動き出せば、担当委員会なり議会のほうへ御説明をさせていただきながら情報を共有できればというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

議 長（淡田 邦夫 君）

1 番。

1 番（永安 文男 君）

以前からの事業の説明では、複雑多岐にわたるいろんなソフト事業で話を伺って、その中で個別的にあそこのサンビレッジ横の町有地の活用も含めたところで、いろんな官民連携の事業形態を探っていくというような説明は、今説明があったのと同じなんですけれども。ただ、これがやはり町長の政策でばんと上がっていたもんですから、今後、長い期間、時間がかかっておりましたので、その利活用がやと具体化するんだなというふうに期待しておったんですけれども、この辺が、今説明があつて、ようわからん部分もあるんですけれども、その事業との絡みで、サンビレッジ横の町有地の活用結びつくものかどうかというのが、ちょっと不安な部分もあるんですけど。この懸念が当たらないように、やはりそのプラットフォーム形成事業の中で、そういう部分もしっかり組み込んでいただけるように要望、請求をしておきたいと思っております。

以上で、もう終わります。

議 長（淡田 邦夫 君）

6 番。

6 番（橋本 義雄 君）

ちょっと消防の非常備消防、消防団のことですけども、先ほど活動服を43名分か、29年次に購入するということでしたけども、私たちの消防時代には、もう夏服と法被しか知らんとですけど、今どういう段階で服装が整備されているのか、ちょっと知りたいと思いますし、何年に1回買い換えをしているのか、そういったことを具体的に教えてください。

それと、川添地区の33ページの29年度の災害、農災のことですけれども、川添地区の施設災害復旧工事ばちょっと聞き漏らしておりましたので、もう一回説明をお願いいたします。

議 長（淡田 邦夫 君）

間もなく12時となりますが、この案件が終わるまで時間を延長いたします。
総務課長。

総務課長（川内野 勉 君）

すいません、何年前に今の活動服を入れたかというのがちょっと手元に持ちませんので申しわけございません。

活動服、今、消防の法被がありますけれども、夏場は通常訓練をする場合、オレンジと青のユニフォームで皆さん活動をされていると思いますけれども、あの部分につきまして新しいタイプのやつが年次出ております。その中で、皆さんが古い年次といいますか、ある時期になると更新されるわけですけれども、今、新しい団員さんたちにはその新しいものが入っています。今、17名の新人さんには新しい活動服が入っておりますので、年数的にかなり長くなっておるということで、一応更新をしたいということで、160名プラス消防主任分を全部更新したいと。今17名入っていますので、差し引きの143名分と消防主任1名分に対しての144名分を今年度73名分更新して、来年残りの71名分を更新させていただきという概要です。

何年前に整備したか、一番最初のやつが何年前かというのは、すいません、後で報告させていただきたいというふうに思います。

議 長（淡田 邦夫 君）

産業経済課長。

産業経済課長兼農業委員会事務局長（大平 弘明 君）

議員御質問のページが、予算書33ページの29年災農業用施設災害復旧工事の件になろうかと思えます。こちらのほうは、平成29年7月5日から9日の梅雨前線の豪雨によって被災をした八口免川添地区の頭首工、長さが35メートルの災害を受けております。これにつきまして、今回整備を行うよう進めているところでございます。工期のほうは、どうしましても標準工期で5か月ということになりますので、繰越をさせていただきながら、平成30年度の春の農業のほうの作付に間に合うようにできるだけ進めていきたいというふうに考えておりますので、よろしくをお願いいたします。

議 長（淡田 邦夫 君）

いいですか。ほかに質疑ございませんか。
総務課長。

総務課長（川内野 勉 君）

すいません、最初に導入したのが平成18年だそうです。

議 長（淡田 邦夫 君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。2 番。

2 番（浜野 亘 君）

8月22日、9月4日、総務厚生委員会に出席をさせていただきました。それから、9月27日、一般質問をさせていただいたわけですが、最初からもうこの土地じゃないとだめということで、議員からの質問に対して、まあ疑問の声が結構あったんですけども、改正することなく、きょう確認をいたしましたので、反対の討論をさせていただきます。

理由は、一部の職員しか知らない状況で、使用している職員については何ら知らされていない状況でございました。なおかつ、住民の方が使われている、住民健診がこの前ありましたんですけども、そのほか、総合福祉センターのボランティアの方々たくさんいらっしゃるんです。その住民の方々を無視して、あえて一企業、数年前、株価が1,400円だったものが、けさ見てきましたら8,100円と、5倍以上になっている状況で、一部上場企業、佐々町としては非常にありがたい企業さんだと思っておりますけども、その住民の方々に迷惑をかけてまで、そこにしないといけないという理由はなかったんじゃないかというふうに思っております。

それから、町有地の利活用の計画ができていない状況の中で、ここだけ普通財産ですので処分すると。それから、町の財政が逼迫している、先ほど説明が企画財政課長からありましたけれども、基金がたくさんある中で逼迫しているわけでもない、その中でなぜ土地を売らなければいけないのか。それから、別の町有地でもいいんじゃないかということの御意見も委員会でありましたし、十分検討をできる会社じゃないかと。町有地じゃなくてもほかにも検討できる余力があられる企業だというふうに思っております。

それから、3,600平米あるものをわざわざ3,000平米を切って、開発行為を避けるというようなこともされております。やはり、行政機関として開発行為は指導しないといけない立場が、役所がそういうふうに分筆して売買できるというようなことを教えるようなことになっているのではないのでしょうか。

けさほど、町長からの確認をとりましたので、時間的余裕がございませんので、修正予算の提出ができない状況でございまして、ほかの案件につきましては了解したいと思いますのですが、この件についてだけ反対をしたいと思いますので、予算案について反対でございます。

よろしく願いいたします。

議 長（淡田 邦夫 君）

2番議員、議員が発言の中で、第80条に、表決には条件をつけることができないということになっております。ということで、条件をつけなくて、一応そういうことで反対ということですね。

2 番（浜野 亘 君）

条件をつけられないので、反対。

議 長（淡田 邦夫 君）

わかりました。

ほかに。5番。

5 番（阿部 豊 君）

賛成討論いたします。

今回の補正は、繰越等補正含めた災害関係関連予算が含まれており、緊急を要するものと理

解をしております。そういった状況で、あとの諸課題においては、総務厚生委員会でも説明を受け、各委員の意見も拝聴して執行部と調査研究は進めさせていただいておりますので、内容等についても危惧する点については執行としても調整をしながら進めていくというような回答も得ております。そういったことで、今回の補正予算については賛成いたします。

議 長（淡田 邦夫 君）

これで討論を終わります。

これから採決を行います。

この採決は起立によって行います。

議案第54号 平成29年度 佐々町一般会計補正予算（第2号）は原案のとおり可決することに賛成の方は起立を願います。

（賛成者起立）

起立多数です。したがって、本案は可決されました。

昼食休憩に入ります。再開を1時15分からということでいたします。

（12時10分 休憩）

（13時13分 再開）

— 日程第3 議案第55号 平成29年度 佐々町国民健康保険特別会計補正予算（第1号） —

議 長（淡田 邦夫 君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第3、議案第55号 平成29年度 佐々町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）を議題とします。

執行の説明を求めます。町長。

町 長（古庄 剛 君）

（議案第55号 朗読）

中身につきましては、保険環境課長をもって説明させていただきますので、よろしくお願ひ申し上げます。

議 長（淡田 邦夫 君）

保険環境課長。

保険環境課長（川崎 順二 君）

それでは、中身、説明をさせていただきます。

めくっていただきまして、1ページをお願いいたします。第1表、歳入歳出予算補正、歳入。

1 款国民健康保険税、補正額、減額582万4,000円、計2億6,975万円。1 項国民健康保険税、補正額、計ともに同額でございます。

3 款国庫支出金、補正額448万4,000円、計3億8,763万円。2 項国庫補助金、補正額448万4,000円、計1億2,948万4,000円。

5 款前期高齢者交付金、補正額34万7,000円、計 4 億2,204万9,000円。1 項前期高齢者交付金、補正額、計ともに同額でございます。

6 款県支出金、補正額61万6,000円、計 1 億5,844万3,000円。2 項県補助金、補正額61万6,000円、計 1 億4,561万6,000円。

9 款繰入金、補正額、減額3,000万円、計9,760万6,000円。1 項繰入金、補正額、計ともに同額でございます。

10 款繰越金、補正額6,978万5,000円、計6,978万8,000円。1 項繰越金、補正額、計ともに同額でございます。

11 款諸収入、補正額462万2,000円、計488万3,000円。3 項雑入、補正額462万2,000円、計488万円。

歳入合計、補正額4,403万円、計17億5,747万円。

続きまして、2 ページ、歳出でございます。

1 款総務費、補正額75万2,000円、計1,379万8,000円。1 項総務管理費、補正額75万2,000円、計1,124万円。

2 款保険給付費、補正額ゼロ、計10億1,240万8,000円。1 項療養諸費、補正額ゼロ、計 8 億7,474万1,000円。

4 款前期高齢者納付金、補正額7,000円、計64万円。1 項前期高齢者納付金、補正額、計ともに同額でございます。

5 款後期高齢者支援金、補正額、減額50万3,000円、計 1 億7,734万5,000円。1 項後期高齢者支援金、補正額、計ともに同額でございます。

6 款介護納付金、補正額、減額62万円、計6,379万5,000円。1 項介護納付金、補正額、計ともに同額でございます。

9 款積立金、補正額2,926万4,000円、計2,931万5,000円。1 項積立金、補正額、計ともに同額でございます。

10 款諸支出金、補正額1,126万2,000円、計1,213万5,000円。2 項返還金、補正額1,126万2,000円、計1,126万4,000円。

12 款予備費、補正額386万8,000円、計859万7,000円。1 項予備費、補正額、計ともに同額でございます。

歳出合計、補正額4,403万円、計17億5,747万円。

3 ページ目からが、歳入歳出補正予算事項別明細書となります。

1、総括につきましては、割愛させていただきます。

4 ページでございます。1 款国民健康保険税ですが、これは本算定によるものでありまして、一般分として減額の474万6,000円、退職分としまして減額の107万8,000円、計582万4,000円の減というふうになっております。これは、昨年12月末の調定をもとに当初予算を計上しておりますので、本算定により調整を行うものでございます。

次に、3 款国庫支出金448万4,000円の増額です。これにつきましては、国保都道府県化に伴いますシステム環境の整備費用にかかる国庫補助金分でございます。基本額がありまして補助金を受けることとなりますが、これを越えた部分につきましては国の調整交付金等で調整がなされるということで、現在進められているところでございます。

次、めくっていただきまして、5 ページ、6 ページをお願いします。5 款前期高齢者交付金、これにつきましては、当初予算で概算計上でございましたので、交付決定によりまして34万7,000円の増額というふうになっております。

次の真ん中の6 款県支出金ですが、61万6,000円の増額です。これにつきましては、国保都道府県化に伴います県の補助金分でございます。これも補助基本額の2分の1を県の補助金ということで交付を受けるようになっておりますが、この2分の1を超える部分につきましては

県の調整交付金のほうで後日調整がなされるというふうになっております。

続きまして、下の分です。9 款繰入金、基金繰入金でございますが、これは繰越金等の関係で調整をして減額というふうにさせていただいております。

次に、6 ページでございます。10 款繰越金、これにつきましては、平成 28 年度決算に伴う繰越金です。総額としては、6,978 万 5,000 円の補正でございます。この中で、1 目療養給付費交付金繰越金、これは退職医療分に伴う分でございますが、これが 305 万 7,000 円、その他繰入金、これが 5,852 万 5,000 円、それから療養給付費負担金繰越金、これが 820 万 3,000 円となります。この最初の退職医療にかかる分の療養給付費交付金の繰越金と 3 番目の国の分でございますが、療養給付費負担金繰越金につきましては、最後 9 ページのほうにあります。諸支出金として平成 28 年度交付を受けたものの超過交付分ということで 29 年度に返還をするということになっている分でございます。

次に、すいません、6 ページに戻っていただきまして、6 ページの下の分ですが、11 款諸収入です。これにつきましては、第三者納付金ということで、交通事故 1 件にかかる求償分として 462 万 2,000 円の増額というふうになっております。

次、めくっていただきまして 7 ページでございます。歳出です。

上の段の 1 款 1 項 1 目一般管理費分でございます。この備品購入費につきましては、国保都道府県化に伴いますパソコン等の整備費用ということになっております。68 万 5,000 円の増額でございます。

次に、3 段目ですが、4 款 1 項 1 目前期高齢者納付金の 7,000 円、それと、すいません、8 ページにまたがりませんが、5 款後期高齢者支援金 50 万 3,000 円の減額、それと 6 款の介護納付金 62 万円の減額、この分につきましては、当初概算計上でございましたので、再算定によりまして金額を調整するものでございます。

次に、8 ページ、一番下の分ですが、9 款 1 項 1 目積立金、財政調整基金への積立金でございますが、歳入でありましたその他繰越金分の 2 分の 1 を積み立てるものでございます。2,926 万 4,000 円の増額でございます。

次に、9 ページでございますが、この 10 款諸支出金につきましては、先ほど歳入のところで説明を申し上げたとおりでございます。平成 28 年度超過交付分の返還金の予算計上ということになります。

以上で説明を終わります。よろしく申し上げます。

議 長（淡田 邦夫 君）

これから質疑を行います。3 番。

3 番（永田 勝美 君）

確認ですが、6 ページのその他繰越金、前年度からの繰越金が約 7,000 万弱あるということで、うち療養給付費交付金繰越金を除くと 5,800 万の繰越ということになっておりまして、8 ページの今年度の積立金が 2,926 万 4,000 円ということでありまして、7 月議会で私が一般質問した中で、積立金の残高が幾らになるかという質問に対して、1 億余りという御回答がありました。この 2,900 万を加えて 1 億ということになるのか。さらなる今年度のいわゆる支出から、今年度の見通しからさらに積み立てをするというものなのかということについてお答えいただきたいと思っております。

議 長（淡田 邦夫 君）

保険環境課長。

保険環境課長（川崎 順二 君）

今回、繰越金に伴いまして、まず基金からの繰り入れ分を3,000万円減額をさせていただいております。これで、基金からの取り崩しは今年度は現時点では行わないということになって、先ほどおっしゃいました積立金の分が2,900万円少しありますが、これはそのまま積み立てられて、今後取崩しが無いという状態になりましたら、総額で1億3,040万円程度の残額というふうになります。

以上です。

議 長（淡田 邦夫 君）

3 番。

3 番（永田 勝美 君）

さらに、佐々町の国保財政については、基金の積み立て基準というのは、ほぼ5,000万円程度というふうに記憶しておりますけれども、基準額っていいですか、県が示している金額というのはそれぐらいだというふうに思っております。倍以上積み立ててきてさらに積み立てるといふ計画になっております。

全体としては、国保税は非常に高いという中で、この積立金取り崩してでも国保税の引き下げに回すべきではないかという質問をしたところだったんですけども、そういう点で次年度の保険料等について、都道府県化の問題等いろいろ難しい問題もありますが、基本姿勢としては引き下げに回す予定はないということなのか、そのことについても、どちらでも結構です。課長でも町長でも結構ですが。

議 長（淡田 邦夫 君）

町長。

町 長（古庄 剛 君）

今、永田議員さんがおっしゃったように、引き下げって可能性はないかということでございます。これは、永田議員さんも御存じのように国保の都道府県化というのが、平成30年から入ってくるわけでございますけど、やはりこの現状をどう見るのかなってというのがまだはっきりしない中で、この基金を取り崩して国保税を下げるというのはちょっとなかなか厳しい、基金を繰り入れて国保税を下げるというのは、判断はなかなか難しいと思っております。これは、やはりいろんな病気といいですか、流行といいですか、そういうことも考えられますので、やはりある程度の基金は積みとかなきゃならないと思っておりますし、そうすることが、基金を繰り入れて国保税を下げるというのは今のところ考えていないわけでございますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

議 長（淡田 邦夫 君）

3 番。

3 番（永田 勝美 君）

基金の意義というのは、町長がおっしゃられたように、不測のインフルエンザの流行であるとかそうした病気の蔓延、そういったときに備えるものだという事については十分承知しているところでありますけれども、その金額がほぼ基準っていいですか、最低これだけは積みましようというふうに指導されている金額というのは、佐々町の場合は大体5,000万程度だといふふうになっていると思うんです。それが、やはりその倍以上積み立てていると。さらに積む

というところを、やはりぜひ見直すべきではないだろうかというふうに考えておりますが、いかがでしょうか。

議 長（淡田 邦夫 君）
副町長。

副 町 長（大瀬 忠昭 君）

国保税の税の問題でございますけれども、先ほど町長のほうからありましたように、今後、都道府県化で、県は将来 3 方式に統一していこうという考えがございます。本町は、現在、ただし書き方式を使って 4 方式でやっておりますので、これ、3 方式に向けて総合的に調整を図っていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

議 長（淡田 邦夫 君）
ほかにございませんでしょうか。8 番。

8 番（須藤 敏規 君）

副町長のほうから都道府県化のお話が出ましたので、黙っとうかと思いましたが、お尋ねします。

国・県支出金で、今回 510 万ほど収入を得て、システム改修が行うようになっておるわけですが、当初予算でも予算計上をされております。国民健康保険システム改修業務委託料、契約はもう既になさって済んでおられるのか、この増額分の理由をちょっとお尋ねします。

それから、携帯用パソコン関連機器ってということで、これもシステムの改修に伴うものと思っておりますけれども、どういう機器があるのか、お知らせください。

議 長（淡田 邦夫 君）
保険環境課長。

保険環境課長（川崎 順二 君）

すいません、システムの改修につきましては、何点か改修があるものですから、それぞれの契約がどうのというのは、ちょっと申しわけありませんけど、把握をしていないところでございます。変更になっている部分につきましては、当初予算で計上した際には、国の仕様等がまだはっきりしていない状況で概算で計上した部分でございますので、その分の調整と、通常例年改修をします国保システムの改修分、そこら辺を含めましたところの調整額での今回補正ということでさせていただいているところでございます。

携帯用パソコンにつきましては、本町の基幹システムからデータを集約するわけでございますけれども、そのデータを集約しまして、媒体を通じて県とのやりとりをするパソコンを導入することになっておりますので、その分の機械のパソコンそのものの購入と、そのセキュリティシステムを入れる部分のところの購入費というふうになっております。

以上です。

議 長（淡田 邦夫 君）
8 番。

8 番（須藤 敏規 君）

パソコンを購入ということですが、何台なんですか。

あとは、システム何とか云々って、集計してっていうことは、クラウド関係を経由していくということになるわけですかね。となれば、よくわからんとですけど、使用料とかは今後出てくるのか、システムの使用料とか。

もともと、この国保システムには、よくわからんとですけど、どういうものが入っているのかは、どの部分を改修しなくちゃいかなのかっていうのをちょっとお尋ねしときたいんですけど。

議 長（淡田 邦夫 君）
保険環境課長。

保険環境課長（川崎 順二 君）

まず、県との連携用のものにつきましては、今回設置する予定のパソコンと県のパソコンとを専用回線でつなぐという部分でございますので、本町のシステムとは切り離された部分で進んでいくものでございます。

それから、今回導入予定のパソコンにつきましては、都道府県化によりまして県内での資格要件を引き継ぐという状況になりますので、この資格要件についての情報のやりとりを行うというパソコンになってまいります。

以上です。

議 長（淡田 邦夫 君）
何台は、台数。

保険環境課長（川崎 順二 君）

すいません、導入するパソコンについては1台導入です。
以上です。

8 番（須藤 敏規 君）
発注しとるとかな。

議 長（淡田 邦夫 君）
発注。

保険環境課長（川崎 順二 君）

パソコンですか。パソコンはまだ発注——

8 番（須藤 敏規 君）
業務委託。当初予算で組んであったからしとるとかなと思って。

保険環境課長（川崎 順二 君）

そこは、すいません、幾つか改修業務がありますので、申しわけありませんが、一部契約をして進めている部分はあるんですが、どの部分が契約してどの部分はしていないというのは、私つかんでないので申しわけございませんが。

以上です。

議 長（淡田 邦夫 君）

休憩します。

(13時36分 休憩)

(13時39分 再開)

議 長（淡田 邦夫 君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

保険環境課長。

保険環境課長（川崎 順二 君）

すいません、時間をとらせて申しわけございません。

まず、システムにつきましては、4つシステムを改修するようにしております。すいません、その他も含めて全部で5つです。そのうち、資格情報を管理する国保集約システムという部分につきましては、既に契約をしまして実際修正をしているところでございます。あとの部分につきましては、この補正が済みましてから改めて契約をするということにしております。

先ほどの国保集約システムにつきましては、各種データのバッチ処理を行うためのシステムの改修でございます。それから、別にやるのが、総合行政システムの改修分につきましては、資格のシステム分それから賦課システム関係の改修を行うようにしております。それから、通常の国保制度の改修分がありまして、その分が高額療養費関係の制度改正に伴う改修をするようにしております。それから、県との通信用の先ほどのパソコンの購入分ですが、このパソコンとの連携部分の自動連携対応にかかるシステムの改修というのがあります。すいません、1件だけ現在契約をしまして進めているところでございまして、あとは今後契約をして進めていくということになっております。

以上です。

議 長（淡田 邦夫 君）

8 番。

8 番（須藤 敏規 君）

県の標準がこないだ出ておるとい一般質問の答弁があったように、佐々町版のとをですね、賦課システムに早く入れてしないと、12月ぐらいまでにはある程度の案を示していただかないと、来年3月まで間に合わんだろうと思いますので、鋭意努力を希望いたします。

以上です。

議 長（淡田 邦夫 君）

ほかにございませんでしょうか。

（「なし。」の声あり）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。3 番。

3 番（永田 勝美 君）

反対討論をいたします。

先般来の質問の中でも国保税の値下げの問題は喫緊の課題ということでもあります。協会けん

ばは一般の被用者保険と比較をして国民健康保険税は1.5倍から2倍、大変高い保険税というふうになっておりますし、給付の内容も一般の協会けんぽ等と比べると劣悪であります。

そうした中で、これ以上払えないという人が増えていく、こういうことがさらに予測をされる、あるいは滞納をして病院にかかれぬという方が増えていく。こうした今の国保の問題点、ぜひとも認識するならば、本来、国保財政の中で余剰が生まれた場合には被保険者に還元をしていく、保険税を引き下げていくということが常套ではないかというふうに思います。

なお、県単位か都道府県単位かの問題についても、これは政府も今回の都道府県単位化に伴って、これを理由とする引き上げについては好ましくないということを言っておるわけですから、これを理由にしての引き上げというのはあってはならないし、それに備えるという必要は基本的にないのではないかというふうに思います。

さらに、先ほど御答弁がありました4方式を3方式に変えると。いわゆる資産割をなくして所得割と平等割と均等割でいくということになりますと、総体的に応能割の部分が所得割だけということになりますから、そうした特に若年で特に資産を持たない、借家でといった方、あるいは非正規の方、そうした方々に対しては相対的に保険税が引き上がる懸念もあるわけがあります。今、佐々町の国保は、資格証明証の発行数の問題や、あるいは一部負担金の減免を行う44条減免の要綱をつくっていない佐々町国保ということになっておりまして、こうした国保の運営姿勢のもとでさらに保険税を基金に繰り入れ積み立てていくというそういう対応に対しては、賛成できません。

以上です。

議 長（淡田 邦夫 君）

5 番。

5 番（阿部 豊 君）

賛成討論いたします。

反対討論でおっしゃられた基金積み立ての関係ですけれども、基本、現状の1億3,000万という状況があると。この状況もここ数年来の佐々町の国保税の税率っていうことで考えると、他の自治体は高く改定していくというのが見受けられますが、本町においては数年来この保険税を増額したという状況は見受けられません。高くなってきた医療費に対して、この基金を活用し、一時期は基金も多くありましたけれども、数年で基金活用で底が見えてきた状況もあったわけです。この流動性の中、現在1億3,000万という状況になっておりますが、今回、保険税が自治体国保から都道府県化ということで、県から保険者を県全体ということで自治体国保に対しては負担金という形で今後請求されるということでもあります。

また、4方式が3方式に移行の方針と、現状の保険税率でこの3方式へ移行するにも所得割の1%の増税が推察されますが、この基金を保有することによって負担金アップを抑制するという目的、財源にも活用できますし、結果、加入者負担を抑制する目的も兼ねそろえているという状況にあるのではないかというふうに推察します。

確かに安くはない保険税率でございますけれども、こういった財政の状況を見た中で、加入者に対していかに安くするかというか、上げないという状況を財政運営を行っていく上でやっているという状況も見えます。

そういったことを確認できますので、この補正予算に対しましては賛成としまして、賛成討論とさせていただきます。

以上です。

議 長（淡田 邦夫 君）

これで討論を終わります。

これから採決を行います。

この採決は起立によって行います。

議案第55号 平成29年度 佐々町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）は原案のとおり可決することに賛成の方は起立を願います。

（賛成者起立）

起立多数です。したがって、本案は可決されました。

— 日程第 4 議案第56号 平成29年度 佐々町介護保険特別会計補正予算（第1号） —

議 長（淡田 邦夫 君）

日程第4、議案第56号 平成29年度 佐々町介護保険特別会計補正予算（第1号）を議題とします。

執行の説明を求めます。町長。

町 長（古庄 剛 君）

（議案第56号 朗読）

中身につきましては、住民福祉課長をもって説明させますので、よろしくお願い申し上げます。

議 長（淡田 邦夫 君）

住民福祉課長。

住民福祉課長（藤永 大治 君）

それでは、1 ページをお願いいたします。第1表、歳入歳出予算補正（保険事業勘定）、歳入。

3 款国庫支出金、補正額62万1,000円、計2億6,275万1,000円。2 項国庫補助金、補正額62万1,000円、計7,384万7,000円。

4 款支払基金交付金、補正額49万8,000円、計3億785万5,000円。1 項支払基金交付金、補正額、計とも同額です。

5 款県支出金、補正額4万1,000円、計1億6,764万3,000円。2 項県補助金、補正額4万1,000円、計643万7,000円。

6 款繰入金、補正額58万1,000円、計1億5,985万9,000円。1 項一般会計繰入金、補正額58万1,000円、計1億5,985万8,000円。

7 款繰越金、補正額6,348万3,000円、計6,348万5,000円。1 項繰越金、補正額、計とも同額です。

歳入合計、補正額6,522万4,000円、計12億445万7,000円。

2 ページをお願いいたします。歳出。

1 款総務費、補正額108万円、計1,710万6,000円。1 項総務管理費、補正額108万円、計625万1,000円。

4 款基金積立金、補正額4,314万1,000円、計4,315万5,000円。1 項基金積立金、補正額、計

とも同額です。

5 款地域支援事業費、補正額 24 万 7,000 円、計 4,152 万円。2 項一般介護予防事業費、補正額 10 万 8,000 円、計 960 万 2,000 円。3 項包括的支援事業任意事業費、補正額 13 万 9,000 円、計 1,981 万 7,000 円。

7 款諸支出金、補正額 2,034 万 8,000 円、計 2,039 万 9,000 円。1 項償還金及び還付加算金、補正額、計とも同額です。

8 款予備費、補正額 40 万 8,000 円、計 494 万 2,000 円。1 項予備費、補正額、計とも同額です。歳出合計、補正額 6,522 万 4,000 円、計 12 億 445 万 7,000 円。

続いて、3 ページお願いいたします。第 1 表、歳入歳出予算補正（サービス事業勘定）、歳入。

2 款繰越金、補正額 48 万 1,000 円、計 48 万 2,000 円。1 項繰越金、補正額、計とも同額です。歳入合計、補正額 48 万 1,000 円、計 287 万 8,000 円。

歳出。

2 款予備費、補正額 48 万 1,000 円、計 51 万 6,000 円。1 項予備費、補正額、計とも同額です。歳出合計、補正額 48 万 1,000 円、計 287 万 8,000 円。

4 ページにつきましては、1、総括につきましては割愛をさせていただきます。

それでは、5 ページをお願いいたします。5 ページ、6 ページ、歳入で地域支援事業の交付金、また繰入金というのが計上あっておりますけれども、こちらにつきましてはそれぞれ人件費分の交付金、繰入金でございます。

5 ページ中ほどにあります 3 款国庫支出金の 4 目介護保険事業費補助金 54 万円、これにつきましては、平成 30 年度の介護保険制度改正に伴います電算システムの改修分の補助でございます。補助率が 2 分の 1 となっております。

7 ページをお願いいたします。7 ページ、7 款繰越金、1 目介護給付費負担金等繰越金 2,034 万 3,000 円でございますけれども、こちらは 29 年度において返還すべき国・県負担金交付金の超過交付分でございます。これにつきましては、歳出の 9 ページのほうで返還金を計上をしております。2 目その他繰越金 4,314 万円、こちらが実質剰余金ということになっております。

続いて、8 ページの歳出でございます。歳出。

4 款基金積立金、1 目介護保険財政調整基金積立金でございますけれども、こちらが 4,314 万 1,000 円ということで、実質剰余金分の積み立て、28 年度決算に伴う積み立てを行っております。

続いて、9 ページをお願いいたします。9 ページ、7 款諸支出金、3 目償還金でございますけれども、2,034 万 8,000 円ということで、それぞれ実績報告に基づく返還金を計上をいたしております。

以上でございます。よろしくをお願いいたします。

議 長（淡田 邦夫 君）

これから質疑を行います。8 番。

8 番（須藤 敏規 君）

8 ページのほうに似たような介護保険システムの改修業務ってあるんですが、これも都道府県化に関係するあれなんですか。当初では節に金額が入っておるんですが、94 万 7,000 円組んであるんですけども、その関係はあるんでしょうか。

議 長（淡田 邦夫 君）

住民福祉課長。

住民福祉課長（藤永 大治 君）

こちらの介護保険システム改修に伴う分は、都道府県化に伴うものではございませんで、当初予算に94万7,000円計上している分につきましては、所得金額の新たな指標の見直しということで、こちらのシステム改修分ということで既に5月に発注をいたしておるところでございます。

以上です。

議 長（淡田 邦夫 君）

ほかに。3番。

3 番（永田 勝美 君）

同じく8ページの基金積立金についてであります。今回、補正で4,314万1,000円の積み立てを行うと、残高は幾らになりますか。

議 長（淡田 邦夫 君）

住民福祉課長。

住民福祉課長（藤永 大治 君）

29年度のこの今回の9月補正後の残高でいきますと、1億1,634万4,000円と予算ベースでそのようになっています。

以上です。

議 長（淡田 邦夫 君）

3番。

3 番（永田 勝美 君）

介護保険の場合の基金の基準額というものがあればお示ししたいと思いますが、介護保険の場合には3か年計画で先の見通しを行い、将来にわたっては将来の支出予定予測額を示して保険料を算定するという事になるかと思えます。

今回の積立額などを見ると、やはりかなりの差し引きのプラスが出ているというふうに考えますし、そうした点では介護保険料の場合にはその負担金については基本的に余った分については還元するというのが原則ではないかというふうに思いますので、保険料としては引き下げられるのではないかというふうに考えておりますが、そういった点についていかがでしょうか。

議 長（淡田 邦夫 君）

住民福祉課長。

住民福祉課長（藤永 大治 君）

御指摘のとおり、介護保険料につきましては、今後3年間の保険給付費等の見込みを行いまして保険料を決定するわけでございますけれども、現在、第7期の事業計画を策定中でございます。これ、一般質問でも御回答申し上げましたところでございますけれども、2025年の団塊の世代の方々が後期高齢者となられますので、持続可能な介護保険制度として十分にこの保険料につきましては検討をしなければならないと思っております。

議 長（淡田 邦夫 君）

ほかに。

（「なし。」の声あり）

ないようでございますので、これで質疑を終わります。
これから討論を行います。

（「なし。」の声あり）

討論もないようです。

これから採決を行います。

議案第56号 平成29年度 佐々町介護保険特別会計補正予算（第1号）は原案のとおり可決することに異議ありませんか。

（「異議なし。」の声あり）

異議なしと認めます。したがって、本案は原案のとおり可決されました。
暫時休憩といたします。2時5分から再開といたします。

（13時58分 休憩）

（14時06分 再開）

— 日程第 5 議案第57号 平成29年度 佐々町後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号） —

議 長（淡田 邦夫 君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第5、議案第57号 平成29年度 佐々町後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）を議題とします。

執行の説明を求めます。町長。

町 長（古庄 剛 君）

（議案第57号 朗読）

中身につきましては、保険環境課長をもって説明させますので、よろしくお願い申し上げます。

議 長（淡田 邦夫 君）

保険環境課長。

保険環境課長（川崎 順二 君）

それでは、御説明いたします。

めくっていただきまして、1ページです。第1表、歳入歳出予算補正、歳入。

1 款後期高齢者医療保険料、補正額、減額14万2,000円、計9,230万6,000円。1 項後期高齢者医療保険料、補正額、計ともに同額でございます。

4 款繰越金、補正額211万3,000円、計211万4,000円。1 項繰越金、補正額、計ともに同額でございます。

続きまして、歳出です。

2 款後期高齢者医療広域連合納付金、補正額31万1,000円、計 1 億3,300万円。1 項後期高齢者医療広域連合納付金、補正額、計ともに同額でございます。

4 款予備費、補正額166万円、計170万5,000円。1 項予備費、補正額、計ともに同額でございます。

歳出合計、補正額197万1,000円、計 1 億3,633万9,000円でございます。

2 ページ、歳入歳出予算補正事項別明細書。1、総括につきましては割愛をさせていただきます。

めくっていただきまして、3 ページでございます。歳入。

1 款 1 項後期高齢者医療保険料でございますが、これは、当初、前年度を見まして概算で計上しておりますので、本算定に伴いまして今回トータルで減額となるものでございます。1 目特別徴収保険料につきましては、補正額、減額37万4,000円、2 目普通徴収保険料につきましては23万2,000円増、計で14万2,000円の減額ということになります。

4 款 1 項 1 目繰越金でございますが、これは平成28年度決算に伴います繰越金でございます。続きまして、4 ページでございます。歳出です。

2 款 1 項 1 目後期高齢者医療広域連合納付金31万1,000円の増額でございます。これは、後期高齢者の広域連合のほうに納付金として支払う分ということで、今回増額をさせていただいております。

以上で説明終わります。よろしく申し上げます。

議 長（淡田 邦夫 君）

これから質疑を行います。

（「なし。」の声あり）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

（「なし。」の声あり）

これから採決を行います。

議案第57号 平成29年度 佐々町後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）は原案のとおり可決することに異議ありませんか。

（「異議なし。」の声あり）

異議なしと認めます。したがって、本案は原案のとおり可決されました。

— 日程第 6 議案第58号 平成29年度 佐々町国民健康保険診療所特別会計補正予算（第1号） —

議 長（淡田 邦夫 君）

日程第 6、議案第 58 号 平成 29 年度 佐々町国民健康保険診療所特別会計補正予算（第 1 号）を議題とします。

執行の説明を求めます。町長。

町 長（古庄 剛 君）

（議案第 58 号 朗読）

中身につきましては、保険環境課長をもって説明させますので、よろしくお願い申し上げます。

議 長（淡田 邦夫 君）

保険環境課長。

保険環境課長（川崎 順二 君）

それでは、めくっていただきまして、1 ページです。第 1 表、歳入歳出予算補正、歳入。

4 款繰入金、補正額、減額 34 万 8,000 円、計 806 万 3,000 円。1 項他会計繰入金、補正額 7 万 7,000 円、計 657 万 6,000 円。2 項基金繰入金、減額 42 万 5,000 円、計 148 万 7,000 円。

5 款繰越金、補正額 69 万 8,000 円、計 69 万 9,000 円。1 項繰越金、補正額、計ともに同額でございます。

歳入合計、補正額 35 万円、計 1,008 万円。

歳出。

3 款基金積立金、補正額 35 万円、計 37 万 2,000 円。1 項基金積立金、補正額、計ともに同額でございます。

歳出合計、補正額 35 万円、計 1,008 万円。

2 ページ、歳入歳出予算補正予算事項別明細書。1、総括につきましては割愛させていただきます。

続きまして、一番後ろの 3 ページです。今回の補正につきましては、地方交付税分の増額に伴います補正の増 7 万 7,000 円分と、平成 28 年度の繰越金確定に伴います財政調整基金からの調整部分でございます。

歳出につきましては、平成 28 年繰越金確定に伴いまして繰越金の 2 分の 1 相当額を基金へ積み立てるということでございます。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

議 長（淡田 邦夫 君）

これから質疑を行います。3 番。

3 番（永田 勝美 君）

町立診療所の診療状況については、先般の一般質問の中でも、もの忘れ外来を中心にして週 1 回程度取り組まれているというお話がありまして、昨今問題になっております認知症の予防あるいは治療に向けて、もの忘れ外来は大変有効だというふうに認識しておりますが、今後の拡充の方向っていいですか、そういったところについて所見があればお伺いをしたい。今後の計画についても、このまま週 1 程度でずっと続けていくのかということについていかがでしょうか。

議 長（淡田 邦夫 君）
町長。

町 長（古庄 剛 君）

もの忘れ外来というのを特別に今やっているわけでございます。この前も御指摘をいただいたように赤字ということで。しかしながら、やはり高齢者社会ということで、認知症という方が、物忘れが大変多いという、初期の方が多いということで考えておりますし、これを週 3 回とか週何回とするのがなかなか厳しくございます。

というのは、やはりお医者さんの確保がなかなか難しいと。今、長崎大学にお願いをして来ていただいていますけど、今度、長崎大学にもまたお話しは行きますけど、まだ、これがずっと続けるのかというのが今なかなか厳しい。

前、福岡大学のほうから来ていただきました。しかしながら、福岡大学も引き上げたいというお話がございまして、長崎大学にお願いをしたわけでございます。

これで、診療日数をふやしていただくかというのはなかなか厳しいと思いますけど、また、今度、長崎大学のほうにお願いに行きますので、話はさせていただきますけど、これの日数というのはなかなか厳しいんではないかと思っていますし、これをいつまでまた続けられるかというとも、我々はもう、まだ、現状は長崎大学はできるだけとかって話はしますが、なかなか厳しいと思いますので、そこら辺のことはやはり認識をしていただきたいと思っておりますし、我々としても一生懸命努力させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

議 長（淡田 邦夫 君）
3 番。

3 番（永田 勝美 君）

今おっしゃられたように、医療供給体制のほう、いわゆる医師不足といいますが、そういった分野の医師が非常に足りなくなっているという状況もあるというふうに聞いております。特に、もの忘れ外来については、最近ニーズも高まっておりますので、各地でそういった拡充が行われているという状況もあります。

については、ぜひ、今まで取り組んできた中身についてその結果を出して、いわゆる結果をやはり全体の中にアピールしていく、そういった取り組みも非常に重要なことというふうに思いますし、そういった意味では保険環境、福祉の分野、そういったところとも連携をしたもの忘れ外来を本当に位置づけた取り組みといえますか、認知症予防の取り組みというのを、やはり総合的に推進していくことが重要ではないだろうか。その上では、ぜひそうした専門家の方の知恵もかりて、ぜひそういうアウトプットを出す、結果を出すということがやはりこのもの忘れ外来を存続し発展させていく上で非常に重要ではないかなというふうに思いますので、ぜひ御検討いただきたいというふうに思います。

以上です。

議 長（淡田 邦夫 君）
答弁はいいですね。

3 番（永田 勝美 君）
はい。

議 長（淡田 邦夫 君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

（「なし。」の声あり）

これから採決を行います。

議案第58号 平成29年度 佐々町国民健康保険診療所特別会計補正予算（第1号）は原案のとおり可決することに異議ありませんか。

（「異議なし。」の声あり）

異議なしと認めます。したがって、本案は原案のとおり可決されました。

— 日程第 7 議案第59号 平成29年度 佐々町公共下水道事業特別会計補正予算（第1号） —

議 長（淡田 邦夫 君）

日程第7、議案第59号 平成29年度 佐々町公共下水道事業特別会計補正予算（第1号）を議題とします。

執行の説明を求めます。町長。

町 長（古庄 剛 君）

（議案第59号 朗読）

中身につきましては、水道課長をもって説明させますので、よろしくお願い申し上げます。

議 長（淡田 邦夫 君）

水道課長。

水道課長（橋川 貴月 君）

では、1 ページ目をごらんください。第1表、歳入歳出予算補正、歳入。

3 款国庫支出金、補正額、減額1,020万円、計5,540万円。1 項国庫補助金、補正額、計ともに同額です。

4 款繰入金、補正額、減額2,000万円、計3億2,000万円。1 項一般会計繰入金、補正額、計とも同額です。

5 款繰越金、補正額2,908万6,000円、計2,908万7,000円。1 項繰越金、補正額、計とも同額です。

7 款町債、補正額330万円、計6,200万円。1 項町債、補正額、計とも同額です。

歳入合計、補正額218万6,000円、計7億4,078万6,000円。

歳出。

1 款総務費、補正額、減額9万6,000円、計2億4,195万1,000円。1 項総務管理費、補正額、計とも同額です。

2 款建設費、補正額、減額373万6,000円、計1億1,927万8,000円。1 項建設費、補正額、計とも同額です。

4 款予備費、補正額601万8,000円、計1,671万4,000円。1 項予備費、補正額、計とも同額です。

歳出合計、補正額218万6,000円、計 7 億4,078万6,000円。

2 ページ目をごらんください。第 2 表、債務負担行為補正。

追加、事項、地方公営企業法適用事務支援事業業務委託、期間、平成30年度、限度額、1,290万円。

次の 3 ページ目をごらんください。第 3 表、地方債補正。

追加、起債の目的、公営企業会計適用債、公共下水道事業、限度額、1,010万円、起債の方法、普通貸借または証券発行、利率、年 2 %以内（ただし、利率見直し方式で借り入れる政府資金及び地方公共団体金融機構資金について、利率見直しを行った後においては、当該見直し後の利率）。償還の方法、政府資金については、その融資条件により、銀行その他の場合には、その債権者と協議する。ただし、町財政の都合により据置期間及び償還期限を短縮し、または繰上償還もしくは低利に借り換えすることができる。

変更、起債の目的、下水道事業債、公共下水道事業、補正前、限度額、5,870万円、起債の方法、普通貸借または証券発行、利率、年 2 %以内（ただし利率見直し方式で借り入れる政府資金及び地方公共団体金融機構資金について、利率見直しを行った後においては、当該見直し後の利率）。償還の方法、政府資金については、その融資条件により、銀行その他の場合には、その債権者と協議する。ただし、町財政の都合により据置期間及び償還期限を短縮し、または繰上償還もしくは低利に借り換えすることができる。

補正後、限度額、5,190万円、起債の方法、補正前に同じ、利率、償還の方法についても補正前に同じです。

4 ページ目、歳入歳出予算補正事項別明細書については、割愛をさせていただきます。

5 ページ目をごらんください。まず、歳入です。

3 款 1 項 1 目国庫補助金、下水道事業費国庫補助金についてですけれども、1,020万円の減額となっています。内容については、汚水事業、雨水事業ありますので、支出のほうで説明をさせていただきますと思います。

その下、4 款繰入金 1 項 1 目の一般会計繰入金ですが、2,000万円の減額となっております。こちらは、次に 5 款にあります繰越金について、平成28年決算の繰越の剰余金が確定したことによりましてその分も受け入れておりますので、減額としております。

次、5 ページ目、7 款 1 項 1 目下水道事業債、減額680万円としております。事業費の減額による起債額の減額としておりますが、歳出のほうで詳細については御説明をさせていただきます。

6 ページ目をごらんください。7 款 1 項 2 目の公営企業会計適用債ですけれども、これについては新規で計画をしております。内容については歳出で御説明をさせていただきます。

続きまして、7 ページ目です。歳出。

1 款 1 項 1 目の総務管理費、委託料についてですが、2 つ目の地方公営企業法適用事務支援業務委託料ということで、昨年度より資産の調査等をしております。今年度、来年度末に向けての公営企業会計適用に向けての準備をしたいと考えております。次の 5 目雨水ポンプ場管理費ですけれども、委託料として1,600万円の減額をしております。これについては、小浦雨水ポンプ場長寿命化対策工事実施設計業務委託ということで、運転に支障がある機械電気を重点的に行い、建物は、この事業自体が32年度までですので、後のストックマネジメント計画に移行したときに実施したいと考えております。

次の 2 款 1 項 1 目下水道建設費については、人事異動に伴う増減をしております。

次の 8 ページ目をごらんください。2 款 1 項 2 目、中央地区排水対策事業費ということで、委託費で1,040万円の減額をしております。これについても、大新田第 2 排水ポンプ場増設実

施設業務委託ということで、ポンプ自体を 4 基計画しておりますけども、今回が 4 基目で、前回と同じ規模のものをつくるために委託費のほうが一部基本的なところが利用できるということで減額になっております。

4 款 1 項 1 目の予備費については、歳入歳出についての調整となっております。

以上です。よろしくお願いいたします。

議 長（淡田 邦夫 君）

これから質疑を行います。8 番。

8 番（須藤 敏規 君）

地方公営企業法の適用の起債を来年度債務負担行為を起こされているようですが、財源も同じく地方債で予定されているのか。本年度のこの業務委託ってあるんですが、実際的にどがん内容を委託されておられるのでしょうか。来年度末で、31年度からになるんですかね、公営企業会計移行という今お話があったんですけども、交付税の措置はあるのか、多分あるかと思うんですけど、28、29、30で借りておられるんですか。まず、それを 1 つお尋ねしたいのと。

当初予算計上して、9 月でほとんど減額が 1,000 万クラス落とされているんですが、これでもう発注を終わって整理という考えをしとけばいいのか。もともと交付金が少なかったから関連で予算を落としたのか、それとも、もう発注した残りの執行残とかそういうことで落とされたのか。そこをちょっとお尋ねしときたいと思います。2 点。

議 長（淡田 邦夫 君）

水道課長。

水道課長（橋川 貴月 君）

3 年間で、28、29、30、31年度で公営企業会計のほうには移行していくわけなんですけども、それについては財源は全て 100% 起債充当ということになっております。それと、交付税が 37% 参入ということなんです。

それと、あと一つ、委託費についての発注ということでしたけども、これについては雨水ポンプ場については建設課のほうで事業を実施しておりますので、そちらのほうで回答をお願いしたいと思っております。

議 長（淡田 邦夫 君）

建設課長。

建設課長（山本 勝憲 君）

すいません、7 ページの雨水ポンプ場の管理費 1,600 万の減額、それと 8 ページの中央排水対策事業費の 1,040 万の減額でございます。

発注状況ということでございますが、こちらは両方とも日本下水道事業団のほうを通じて発注ということで、現在、業者のほうに入札の告示をしているという状況でございます。

まず、なぜ減額になったかという理由が 3 点ほどございます。まず、1 点目は、先ほど 2 つの業務で分けておりますけど、両方とも実施設計ということで、これを一括で発注すればその分だけ経費が安くなるということで、1 点。それと、大新田のほう、第 2 排水機ポンプ場の増設の部分につきましては、同じ規模のポンプを増設しますので、前回 3.75 トンのポンプを据えておりますけど、その部分がある程度参考になるということでその分も経費的には減額になる

ということでございます。

あと、長寿命化の対策工事の部分につきましては、長寿命化計画が28年度末にできたということで、ちょっと予算要求の時期と若干時間的にずれがございまして、その分で長寿命化計画で大体ここまで見るだろうという部分で、具体的に言えば、建築とか建築設備に関する部分、その部分まで見て予算要求をさせていただいておりましたけど、実際はその分は、32年度までは長寿命化計画という形でこちらの設計で一括して、32年度までの事業費分については設計を行います、それ以降につきましてはストックマネジメントということをして下水道のほうでやっておりますので、そちらのほうの事業に変わるということで、いわゆる先ほど言いましたように建築とか建築設備の部分の設計が減額になったということでございます。

よろしく願いいたします。

議 長（淡田 邦夫 君）
8 番。

8 番（須藤 敏規 君）

これは、全体的なことなんです、31年度から公営企業会計に移行したいということで事務を進めておられるんですが、企業会計になれば一般会計からの繰り入れ等はまずあり得ないですから、経営的にはそういう試算をなさって進めておられるということで理解しとけばよろしいんでしょうか。

議 長（淡田 邦夫 君）
水道課長。

水道課長（橋川 貴月 君）

一般会計からの繰り入れについてはいただいているところではありますけども、今、資産とかの調査まで終わって、今後、台帳整備といいますが、企業会計移行に向けての試算を今からしていくところであります。全くないということにはなっていないのかとは思ってはいますけれども、内容を見ながら、今後も検討しながら各委員会で報告をさせていただくような準備をできたらと考えております。

よろしく願いいたします。

議 長（淡田 邦夫 君）
8 番。

8 番（須藤 敏規 君）

企業会計の原則をよく理解されてから答弁していただきたいと思います。水道企業会計を参考になさって、まず一般会計からのそういうのはあり得ないということは私は思ったものですから。そうなれば、先ほどからほかの議員さんが言われる国保、介護、全てに出していただきたいと思いますので、その点について。どがんでしょうか、間違ごうとれば訂正してください。

議 長（淡田 邦夫 君）
副町長。

副 町 長（大瀬 忠昭 君）

今の 8 番議員さんの言われるとおり、原則はそのとおりでございます。

この下水道につきましては、また今後十分検討協議をさせていただきたいと思っております。よろしく願います。

議 長（淡田 邦夫 君）

企画財政課長。

企画財政課長（今道 晋次 君）

事務的な話で大変申しわけございませんけども、下水道に関しましては、基準内繰り出しというのがございますので、その基準内繰り出しについては、私がちょっと今手元に資料は持ち合わせておりませんが、今回の企業会計移行するに当たっての細かい数字を判断した上で、一般会計からの繰り出しという方法なのかどうかというところは精査が必要かというふうに思いますけども、基本的には交付税で措置された部分もございまして、そういったことも踏まえて基準内繰り出しという部分の精査をしていく必要があるのかなというふうに思っております。

よろしく願います。

議 長（淡田 邦夫 君）

8 番。

8 番（須藤 敏規 君）

今、企画財政課長のほうから基準内交付税、市町村分が負担する分のお話があったんですけど、そういえばほかの各事業についてもそういうのがあるんですけども、僕はあくまでも企業会計というのが頭にありまして、それも法的に可能であれば、ちょっと私も勉強し直さんばもんですから、わかれば教えていただきたい。

議 長（淡田 邦夫 君）

ほかに。

（「なし。」の声あり）

ないようでございますので、これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

（「なし。」の声あり）

これで討論を終わります。

これから採決を行います。

議案第 59 号 平成 29 年度 佐々町公共下水道事業特別会計補正予算（第 1 号）は原案のとおり可決することに異議ありませんか。

（「異議なし。」の声あり）

異議なしと認めます。したがって、本案は原案のとおり可決されました。

— 日程第8 議案第60号 平成29年度 佐々町農業集落排水事業特別会計補正予算（第1号） —

議 長（淡田 邦夫 君）

日程第8、議案第60号 平成29年度 佐々町農業集落排水事業特別会計補正予算（第1号）を議題とします。

執行の説明を求めます。町長。

町 長（古庄 剛 君）

（議案第60号 朗読）

水道課長をもって中身を説明させますので、よろしくお願い申し上げます。

議 長（淡田 邦夫 君）

水道課長。

水道課長（橋川 貴月 君）

では、資料の1ページ目をごらんください。第1表、歳入歳出予算補正。歳入。

3款繰入金、補正額、減額200万円、計1,900万円。1項一般会計繰入金、補正額、計とも同額です。

4款繰越金、補正額310万3,000円、計310万4,000円。1項繰越金、補正額、計とも同額です。歳入合計、補正額110万3,000円、計2,440万3,000円。

歳出。

1款総務費、補正額50万円、計810万2,000円。1項総務管理費、補正額、計とも同額です。

3款予備費、補正額60万3,000円、計90万2,000円。1項予備費、補正額、計とも同額です。

歳出合計、補正額110万3,000円、計2,440万3,000円。

2ページ目の歳入歳出補正予算事項別明細書については、割愛をさせていただきます。

3ページ目をごらんください。1、歳入。

3款1項1目一般会計繰入金、補正額、減額200万円となっております。これにつきましては、その下の4款1項1目繰越金の繰越額310万3,000円が平成28年決算による剰余金が確定しておりますので、これを繰り入れたことによる繰入金の減額をしております。

次、4ページ目をごらんください。3、歳出。

1款1項2目施設管理費、修繕料として50万円の増額です。次の予備費については、歳入歳出の調整をしております。

以上、説明を終わります。

議 長（淡田 邦夫 君）

これから質疑を行います。5番。

5 番（阿部 豊 君）

どちらで聞けばよかったかわからずに、こちらで聞かせていただきます。

こちらに、一般会計繰入金が、補正前が2,100万、補正後が1,900万ということで、一般会計から繰り入れをされております。

産業建設文教委員会の調査報告でわかったんですけども、先ほどの公共下水道、特会の企業会計化ということで、今後、企業会計になった後に農業集落排水事業特別会計の農集排を公共

下水道へつなぐというような方針であるという旨の報告というか調査が行われているようで、その中でちょっと意見がなかったんで私が聞かせていただきますが。

企業会計になった後に、そもそもとして、つなぐ費用を公共下水道のほうで公共下水道事業債を活用してつなぐんだという方針であると。いわゆる公共下水道の企業会計のほうで財源を捻出して行うというような方針であるというふうに認識したんですが。

そもそも、農集は赤字ですよ。下水もルール分としていただいている基金以外にも繰り入れを現状しておるという状況で、企業会計になって繰り入れしませんというのに、持ち出しを多くするような分を受け入れるというような方向になるんで、それは企業会計側からすると、そうであればつなぐ分は一般会計で見てくださいよというような、総論として安くするけど、企業会計のボトムが多くなれば、いわゆる企業会計としての料金に影響するということになるんじゃないかというのを認識していますから、そういった検討もなされているのかなと。

総枠の事業費を抑えてするというのが公共事業債なのか、それとも一般会計の費用負担でつなぐ公共下水道の企業会計にお願いしますというふうにしていただいたほうが、料金反映、まあ受入れられないと、企業会計が、一般会計のルール分以外は受け入れられないという認識でするのであれば、料金等にも影響してくるのかなというのを推察するものですから、そういったことも考えて計画がなされているのかと。

何を言わんとするか、伝わっていますかね。そこをどういうふうな考え方、そういった検討をされているのか、されていないのか。それで、つないだほうが将来的に財政負担も抑えられるのでつなぎたいという方針であると、今、一般会計から農集特会に繰り入れしていますよね。一般会計から繰り入れ、現状している状況ですから、これがこれより安くなるんですよというふうな、幾らぐらい、今、一般会計から持ち出ししていただいて、つなぐことによって費用負担がどれだけ安くなるんだというような金額の報告もなかったんで、そういったのをされての、安いんだということはわかったんですけど、じゃあ幾らぐらい安くなるのって。それで、いけばいいんで、公共下水道のほうは、これはちょっと言葉が適切かどうかはわかりませんが、全体としては赤字分をちょっと抱えるような形になると思うんで。利用料収入はふえる、そのところの、そういったことも加味した検討がなされたのかなというところをお伺いしたい。

議長（淡田 邦夫 君）

水道課長。

水道課長（橋川 貴月 君）

農業集落排水設備の公共下水道への接続についてということで、費用的なものはどうなるのかという御質問だと思いますけども、農業集落排水接続に当たっては、最適化構想ということで昨年度計画をさせていただきました。今の農業集落排水事業をそのまま持続させて維持管理していくよりも、公共下水道につないだほうが将来的には安くなるという試算が出ております。ただ、接続するに当たっての費用というのが別に発生するわけですけども、今年度、受け入れる側のほう、公共下水道事業のほうで受け入れるようになればするんですが、下水道の認可区域に入れば、公共下水道の補助事業の対応でできるということで、2分の1の補助金が接続についてはいただくと、それについても起債、その他の交付税措置もあるということですので、そちらのほうで、公共下水道に区域を編入した後に接続したほうが安くなるということで、結果としては出ております。

ただ、全体的な公共下水道事業が、それで先ほどの一般会計からの繰入金金がなくなるかというところは、今後検討を十分させていただきながら進めさせていただけたらと考えております。よろしく願いいたします。

議 長（淡田 邦夫 君）
5 番。

5 番（阿部 豊 君）

なるほど、補助事業の適用を受けれるからそちらのほうが有利だと、理解します。補助残は企業会計として一般会計に請求するということが可能なのか。原因者負担というような概念はもうその時点では無理ということになるのでしょうか。そこのところ、確認させていただきたい。

議 長（淡田 邦夫 君）
水道課長。

水道課長（橋川 貴月 君）

農業集落排水については、もともとのルール自体が、受け入れる側、公共下水道ですね、今回の場合は——が、接続に向けてつないでいくというルールになっておりますので、そのところで御了解いただけたらと考えております。

議 長（淡田 邦夫 君）
ほかにありませんか。

（「なし。」の声あり）

これで質疑を終わります。
これから討論を行います。

（「なし。」の声あり）

討論もないようでございます。討論を終わります。

これから採決を行います。

議案第60号 平成29年度佐々町農業集落排水事業特別会計補正予算（第1号）は原案のとおり可決することに異議ありませんか。

（「異議なし。」の声あり）

異議なしと認めます。したがって、本案は原案のとおり可決されました。

— 日程第9 議案第61号 平成29年度 佐々町水道事業会計補正予算（第2号） —

議 長（淡田 邦夫 君）

日程第9、議案第61号 平成29年度佐々町水道事業会計補正予算（第2号）を議題とします。執行の説明を求めます。町長。

町 長（古庄 剛 君）

（議案第61号 朗読）

中身につきましては、水道課長をもって説明させていただきますので、よろしくお願ひ申し上げます。

議 長（淡田 邦夫 君）

水道課長。

水道課長（橋川 貴月 君）

では、1 ページ目をごらんください。平成29年度水道事業会計予算説明書、収益的収入及び支出。

収入、1 款 3 項 1 目その他特別利益ということで、退職給付金引当金戻入もしくは賞与引当戻入とありますけども、これは4 月及び8 月の人事異動によるものの増額になっております。

次、2 ページ目をごらんください。支出、1 款 1 項 4 目総係費、こちらのほうですけども、こちらのほうも人事異動による増額及び減額になっております。それと、5 目減価償却費につきましては、機械及び装置、構築物ということで、増減額それぞれ発生しております、金額が、増額で113万9,000円上がっておりますけども、これにつきましては28年度決算により工事費が確定したことによる再計算をさせていただいた中での増減になっております。

次、3 ページ目をごらんください。同じく支出です。ここについては、予備費については歳入歳出の調整を行っております。

次、4 ページ目をごらんください。資本的支出。

支出、1 款 1 項 2 目施設改良費というところで、委託料として4,096万4,000円の補正をしております。これにつきましては、水道ビジョンに基づく中央配水池進入路道路基本設計業務委託及び浄水場送水ポンプ室詳細設計業務委託。それと、あともう一件委託業務としては、一般県道佐世保鹿町線橋梁添架配管更新設計業務委託ということで、これは町道中央海岸線に牛右衛門さんがありますけども、あそこの脇にかかっている県道の橋、栄橋とみのり橋がありますけども、その分の漏水箇所、今調査をずっとしておりますけども、配管の布設がえが更新が必要だろうということで、今回委託業務を組ませていただいております。

次、工事請負費ですけども、増額5,757万2,000円。これにつきましては、水道ビジョンに関連した工事ということで、河川公園の深井戸から導水管の新設工事ということで、2 年、ことし1 工区、来年、新年度にもう1 工区の予定をして、来年度河川公園からの接続ができるようになろうかと思っております。それと、水圧不足解消のために町道第3 保育所線配水管新設工事、それと町道古堂線配水管新設工事2 件を予定しております。

それと、維持管理についてですけども、角山配水池制御盤の新設工事、それと南部配水池流量計の更新工事を予定しております。南部配水池については、メーターの交換で耐用年数が8 年のものが現在18年経過して、若干表示部分が誤差があるのではないかとということで更新をさせていただきます。

それと、その下の負担金、道路改良工事負担金ですけども、これは昨年、水道管の配水管を布設替えをして仮舗装どめで終わっております。町道野寄線の分ですけども、すぐ脇の工事を建設課で実施しますので、建設課が本復旧する際に、水道課のほうより負担金を支払って、舗装工事を一連で仕上げさせていただくような計画で考えております。

以上、説明を終わらせていただきます。よろしくお願ひいたします。

議 長（淡田 邦夫 君）

これから質疑を行います。8 番。

8 番（須藤 敏規 君）

4 ページの4 条予算の資本的収支お尋ねします。

あと 5 か月ばかりで出納閉鎖が来るわけですが、水道企業は御存じのように出納整理期間がございませんので、あと 5 か月でできるということで、こういう委託料とか工事費は出されていると思うんですが、これは全て新水道ビジョンの計画によるものかどうかですね。私たちが、新水道ビジョンっていうのをよく理解しとらんもんですから、担当委員会では詳しく説明があっていると思うんですが、先日いただきました本をまた読ませていただきたいと思います。

それと、もう一点は、先ほどから予備費のことが出てきておりますので、私も 1 点予備費で、3 ページ。

当初から 1 億近い予備費が残るようなことになるわけですが、ほとんどこれが決算剰余金で余るのが通年なっていると思います。28 年度決算に見ますと、漏水調査で 1,000 万ほどお金になっていないように私は計算しとるんですが、漏水調査がないように、本年度も漏水調査をされたのか、ちょっとお尋ねします。

議 長 (淡田 邦夫 君)

水道課長。

水道課長 (橋川 貴月 君)

まず、すいません、4 ページの支出の件の分の委託料ですが、水道ビジョンについての項目としましては、委託料の中央配水池進入道路基本設計業務委託、それと浄水場送水ポンプ室詳細設計業務委託、それと工事請負費の河川公園深井戸導水管新設工事が、水道ビジョンで上がっている分になります。それ以外の分については、漏水の対策として、委託料として上げている分が 1 件、県道佐世保鹿町線の分、それと水圧不足解消として町道第 3 保育所線、町道古堂線という部分の配管工事を予定しています。

あと、すいません、予備費についての 3 ページの分です。補正予算で約 9,600 万ほどの予備費があって、この中で漏水調査の分が残るんじゃないかというお話だったかと思うんですが、もともと当初組んでおりました分が緊急用ということで組んでおりましたけど、今回の工事でもありますように、漏水箇所が直接見えた分については漏水の調査というのは必要なかったもんですから、今後、ほかのところでまた怪しいところが出てきたりとかした場合には、直接確認ができないところについてはやはり調査をかけて作業のほうを進めていかせていきたいと考えております。

よろしく願いいたします。

議 長 (淡田 邦夫 君)

8 番。

8 番 (須藤 敏規 君)

今のお話をお聞きしたら、もう緊急的な漏水調査だけで、日常的に区間を絞っての漏水調査は行っていないということになるわけですね。

参考までに申しわけないんですけど、昨年度の 9 トンか、何かパーセントを見たら有収率が下がったんですけども、その理由は何だったんでしょうか。

議 長 (淡田 邦夫 君)

水道課長。

水道課長 (橋川 貴月 君)

昨年度の決算書でいきますと——ちょっとお待ちいただいでいいですか。九十数%台のもともと有収率だったところが84%程度に、28年度は落ちておりました。大きなところでいきますと、土手迎地区で1件、それと里山の凶池団地付近で1件、それと国道の鴨川と古川の町内会の境目付近で1件、合わせて3件の大きな漏水箇所が発生しております、数か月間漏れていたんではないかということで確認しております。

有収率が落ちていること自体はわかっていたんですけど、凶池団地のほうについては調査をしておりましたところ、暗渠の中の配管が抜けていたということで、河川の中にそのまま水が落ちていたために漏水箇所の特定がなかなかできなかったというのが現状であります。そういったところで、調査のほう、実際、職員のほうではいるんですけど、なかなか確認ができづかったところが数か所あったというのが現状であります。

以上、よろしく申し上げます。

議 長（淡田 邦夫 君）

町長。

町 長（古庄 剛 君）

有収率が低くなったということで、大変御迷惑をお掛けしております。やはり、有収率の調査というのは日常的にやらなきゃならないと我々も思っていますし、今後予算等も考えながら有収率の調査をやっていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

議 長（淡田 邦夫 君）

ほかにありませんか。

（「なし。」の声あり）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

（「なし。」の声あり）

これで討論を終わります。

これから採決を行います。

議案第61号 平成29年度 佐々町水道事業会計補正予算（第2号）は原案のとおり可決することに異議ありませんか。

（「異議なし。」の声あり）

異議なしと認めます。したがって、本案は原案のとおり可決されました。

暫時休憩いたします。議事録配付のため、若干休憩します。また、ちょっと時間がかかるものですから、所管、その間に、3時半まで、所管事務調査のほどをお願いしたいと思います。

（15時07分 休憩）

（15時32分 再開）

— 日程第10 諮問第 1 号 人権擁護委員候補者の推薦に関する件 —

議 長（淡田 邦夫 君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第10、諮問第 1 号 人権擁護委員候補者の推薦に関する件を議題とします。

執行の説明を求めます。町長。

町 長（古庄 剛 君）

諮問第 1 号 人権擁護委員候補者の推薦に関する件、下記の者を人権擁護委員候補者として推薦したいので、人権擁護委員法、（昭和24年法律第139号）第 6 条第 3 項の規定に基づき、議会の意見を求める。

平成29年 9 月27日提出、佐々町長。

記、大浦照子。

提案理由、人権擁護委員 4 名のうち 1 名が、平成29年12月31日をもって任期満了となるため、上記の者を後任の人権擁護委員候補者として推薦したいので、議会の意見を求めるものでございます。

下に、履歴書等を添付しております。適任者と考えますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

議 長（淡田 邦夫 君）

お諮りします。質疑、討論を省略することに異議ありませんか。

（「異議なし。」の声あり）

異議なしと認めます。質疑、討論を省略します。

お諮りします。諮問第 1 号 人権擁護委員候補者に対する執行の意見は、適任ということで議会は適任とすることに、異議ありませんか。

（「異議なし。」の声あり）

異議なしと認めます。したがって、本件に対する議会の意見は、適任とすることに決定いたしました。

議案第62号 佐々町監査委員の選任について同意を求める件、議案第63号 平成29年度佐々町一般会計補正予算（第 3 号）の 2 件が提出されました。

この追加案件につきましては、議会運営委員会を開催し、協議をいたしました。追加案件 2 件については、日程を追加し、追加日程第 1 とし、議案第62号 佐々町監査委員の選任について同意を求める件、追加日程第 2 として、議案第63号 平成29年度佐々町一般会計補正予算（第 3 号）をそれぞれ議題としたいと思っております。異議ありませんか。

（「異議なし。」の声あり）

異議なしと認めます。

議案第62号 佐々町監査委員の選任について同意を求める件を、追加日程第 1 とし、議案第 63号 平成29年度佐々町一般会計補正予算（第 3 号）を追加日程第 2 とし、以上の 2 件を日程に加え、議題とすることに決定いたしました。

議案書配布のため、しばらく休憩します。

(15時36分 休憩)

(15時36分 再開)

— 追加日程第 1 議案第62号 佐々町監査委員の選任について同意を求める件 —

議 長（淡田 邦夫 君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

追加日程第 1、議案第62号 佐々町監査委員の選任について同意を求める件を議題とします。
執行の説明を求めます。町長。

町 長（古庄 剛 君）

(議案第62号 朗読)

議 長（淡田 邦夫 君）

お諮りします。質疑、討論を省略し、直ちに採決することに異議ありませんか。

(「異議なし。」の声あり)

異議なしと認めます。よって、質疑、討論を省略し、直ちに採決します。

議案第62号 佐々町監査委員の選任について同意を求める件は、原案のとおり同意することに異議ありませんか。

(「異議なし。」の声あり)

異議なしと認めます。よって、本案は同意することに決定いたしました。

— 追加日程第 2 議案第63号 平成29年度 佐々町一般会計補正予算（第 3 号） —

議 長（淡田 邦夫 君）

追加日程第 2、議案第63号 平成29年度 佐々町一般会計補正予算（第 3 号）を議題とします。
執行の説明を求めます。町長。

町 長（古庄 剛 君）

(議案第63号 朗読)

中身につきましては、企画財政課長をもって説明させますので、よろしくお願ひ申し上げます。

議 長（淡田 邦夫 君）

企画財政課長。

企画財政課長（今道 晋次 君）

1 枚めくっていただきまして、1 ページです。

第 1 表歳入歳出予算補正、歳入、14 款県支出金、補正額 810 万 9,000 円、計 5 億 3,086 万 9,000 円。

3 項委託金、補正額 810 万 9,000 円、計 3,923 万 1,000 円。

歳入合計、補正額 810 万 9,000 円、計 58 億 7,637 万 8,000 円。

歳出、2 款総務費、補正額 810 万 9,000 円、計 6 億 4,464 万 8,000 円。

4 項選挙費、補正額 810 万 9,000 円、計 2,695 万 6,000 円。

歳出合計、補正額 810 万 9,000 円、計 58 億 7,637 万 8,000 円。

2 ページ以降、歳入歳出補正予算の事項別明細書がありますけれども、担当課のほうから説明をお願いしたいというふうに思っております。

以上です。

議 長（淡田 邦夫 君）

総務課長。

総務課長（川内野 勉 君）

今回の補正予算 3 号は、9 月 28 日の衆議院の解散を受けまして、今後 10 月 10 日公示、10 月 22 日投票というスケジュールで進んでいるという県選管の説明を受け、今回追加議案として、一般会計補正予算を計上いたしました。

3 ページをお願いいたします。歳入でございます。

14 款県支出金、1 目総務費委託金でございます。衆議院議員総選挙選挙費委託金 810 万 9,000 円です。

次のページ、4 ページですけど、歳出でございます。

この中で、3 番の職員手当 330 万円です。これ時間外手当ということになっております。賃金ですけども 52 万 5,000 円、3 名分を予定しております。

次に、役務費ですけども 107 万円ということで、通信運搬費としてはがき代、手数料として読み取り機械の設定費用を計上させていただいております。

18 節の備品購入費ですけども、97 万 2,000 円と、高額ではございますけれども、今回、自動読み取り機の増設分を購入したいと考えております。

以上、説明を終わります。

議 長（淡田 邦夫 君）

これから質疑を行います。

（「なし。」の声あり）

議 長（淡田 邦夫 君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

（「なし。」の声あり）

議 長（淡田 邦夫 君）

これで討論を終わります。

これから採決を行います。

議案第63号 平成29年度 佐々町一般会計補正予算（第3号）は、原案のとおり可決することに異議ありませんか。

（「異議なし。」の声あり）

異議なしと認めます。したがって、本案は原案のとおり可決されました。

— 日程第11 意見書第4号 玄海原子力発電所の再稼働に反対する意見書(案)の提出について —

議長（淡田 邦夫 君）

日程第11、意見書第4号 玄海原子力発電所の再稼働に反対する意見書（案）の提出についてを議題とします。

事務局長に朗読させます。

議会事務局長（中村 義治 君）

（意見書第4号 朗読）

下記のほうに採択された際の提出先が記載されております。
以上です。

議長（淡田 邦夫 君）

提出者から発言がありましたら許可します。3番。

3番（永田 勝美 君）

意見書の案に示しているように、今回、討論の中でも、私の一般質問の中でも申し上げましたが、玄海原子力発電所の再稼働によって、得るものは何もないのではないかと。起こり得るのは、大変重大な心配と核のごみ、ということになるわけであります。

よって、この意見書に、皆様方議員各位の見識を示していただくことを要望いたします。
以上です。

議長（淡田 邦夫 君）

これから質疑を行います。1番。

1番（永安 文男 君）

この意見書の中に、原子力規制委員会の新規制基準の適合というような言葉が入っているわけですが、これを満たすことによって絶対的な安全性が確保できるわけではありませんという表明されとるといようなことが、大体書いてあるんですけども、これは玄海原発3、4号機の再稼働の議論のときに出てきたのか、もっとその前を、高浜原発のときあたりのことを書いてあるのかをちょっと確認させてください。

以上です。

議長（淡田 邦夫 君）

はい、3番。

3 番（永田 勝美 君）

この議論はですね、「絶対的な安全性が確保できるわけではありません」と言っているのは、玄海原発の審議の際に出された意見書ではないですね。その前の意見書の中で出されてあります。

議 長（淡田 邦夫 君）
1 番。

1 番（永安 文男 君）

それとあわせてですね、長崎県の住民説明会のくだりがちょっと書いてあるんですけども、この説明の中で、反対の論議があったことが、声が示されたというくだりがあるわけですね。これに対して、今度は賛成の意見のことがなかったのかどうか、これもちょっと確認させてください。

議 長（淡田 邦夫 君）
はい、3 番。

3 番（永田 勝美 君）

賛成の意見もあったというふうに聞いておりますが、私自身はその内容は確認しておりません。

今回の意見書の趣旨は、そうしたのではなく、近隣の松浦市や平戸市や壱岐市や、そういったところが反対をされてると、そういう事情を持ってしても、今回の反対する意見書の文面としては、反対の意見を示すということが、適切だというふうに考えたところであります。

以上です。

議 長（淡田 邦夫 君）
はい、1 番。いいですか。1 番。

1 番（永安 文男 君）

わかりました。一応そういうことで、賛成者とか反対者とか、いろんな意見があるということを確認いたしましたので、ありがとうございました。

議 長（淡田 邦夫 君）
ほかにありませんか。8 番。

8 番（須藤 敏規 君）

こちら辺に、水源汚染などの関係で、多分これは世知原町の関係じゃないかと思うんですけど、御存じのように佐賀県と玄海町については、この再稼働について、賛成の立場を表明されておりますけども、この30キロ圏内の隣接の平戸市とか、佐世保市とか、その辺の再稼働の反対の意向は出されているのかどうか、お知らせ願いたいと思います。佐世保、平戸、どこですかね、松浦ですか。どんな状況なのか。

議 長（淡田 邦夫 君）
はい、3 番。

3 番（永田 勝美 君）

松浦市議会、それから平戸市議会は、それぞれ全会一致で反対ということでありましたし、松浦市長も平戸市長も反対という言明をされております。以上です。

佐世保市については、反対という言明はされていないという状況だというふうに思います。

議 長（淡田 邦夫 君）

はい、8 番。

8 番（須藤 敏規 君）

まことに申しわけないんですけど、やはり近隣30キロ圏内の佐世保、松浦、平戸、これをさておいて30キロ圏外、外の私たちが、町議会として、これを出すというのはいかがなものかと私思うものですから、どんなものでしょうかね。やはり国のエネルギー政策によって、最高の規制で、そりゃ安全性が確保されるものではないということは存じております。

しかし、やはり佐世保市議会近隣とか、やはり今後つき合うていかなくちやならない近隣市議会の意見を踏まえた中で、対応すべきじゃないかと私は思っておりますけど。その件について、どのようにお考えか。うちうちで行くという考えでしょうか。

議 長（淡田 邦夫 君）

はい、3 番。

3 番（永田 勝美 君）

私は、平戸市議会や、あるいは松浦市議会より近いところで、反対決議が行われたということ。それから、何よりも佐々町の町民に対する私たち町議会の責任として、町民の声を代表する者として、今回、今回の意見書というのは、やはり示しておく必要があるのではないかと。

この意見書が出されることによって、再稼働がとまるということではないのかもしれませんが、しかし、であっても、やはり私たちの立場というのは、明らかにしておく必要があるのではないかと、いうふうに考えるところであります。

以上です。

議 長（淡田 邦夫 君）

ほかにございませんでしょうか。

（「なし。」の声あり）

議 長（淡田 邦夫 君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。1 番。

1 番（永安 文男 君）

反対討論をいたします。私も福島原発の過酷な事故から5年が経っておりまして、原発に対する抵抗感もあり、原発ゼロを否定するものではありません。このことをまずもって申し上げておきたいというふうに思います。

安全神話は誤りであるとして書いてありますが、事故等の経過の中で、新規制基準がつけられ、原子力規制委員会による審査を受けて、再稼働の準備に入っていくもので、停止中の原発、愛

媛県の伊方原発 3 号機、大飯 3、4 号機、玄海 3、4 号機等々、主要審査が終わったりしている状況にあるところでございます。

以前に、福井県の高浜原発 3、4 号機の再稼働差し止めの仮処分取り消しでは、審査合格を認めた原子力規制委員会の判断に不合理な点はなく、周辺住民の人格権が侵害される具体的な危険性はないと認定され、仮処分の効力は消え、2 基は再稼働できるといった判決がありました。

提案の玄海原発 3、4 号機については、再稼働に備えて、特別点検という安全対策が行われ、点検終了後、営業運転を再開するとのことです。通常運転とは別に、地震に対応する 12 項目の点検。地震観測点を 3 県、福岡、佐賀、長崎、3 県に 21 か所新設し、避難道路のアクセス改善等を安全対策の取り組みがされるということでございます。こういった流れの中で、地元自治体の玄海町及び佐賀県が同意しているという状況にあります。

また本議会の中でも、原発に関して玄海原発の再稼働を前にしての質問には、法律の中で適正検査をやっているの、町として見守る以外にはない。国と県を信用して、しっかりやっていると思うので、町が単独で取り組むというのは厳しい。国と県の方向性に従ってやっていかなければならないといった見解が示されております。私もこれに同意するものでございます。よって、この意見書（案）の提出につきましては、反対といたします。

以上です。

議 長（淡田 邦夫 君）

はい、2 番。

2 番（浜野 亘 君）

すみません。賛成討論をしないといけないそうなのです。

まず、福島第一原発において、40 キロを超えるところに放射能飛散が、現に発生いたしております。事故がないことを祈りたいわけですが、万が一、事故があるということになれば、乳幼児を持たれる保護者の皆さんは、心配でならないと思うんですね。やっぱり原発の事故があったときには、乳幼児が優先。子供さんも初め、優先的に避難をされた状況でございます。そういうこと。

それから今後、玄海原発の 2 号機を 40 年を過ぎても、使えるように法律が改正されるということでございまして、本当に大丈夫なのかと。耐用年数が 40 年過ぎてまた、改修をして、延命措置をさせるというようなことがあって、万が一の事故があってはならないというふうに思いますので、この趣旨については、賛成をせざるを得ないと。

先ほど近隣の市町が同意についてありましたけども、長崎県は 3 市でございます。で、あと佐賀県の伊万里市議会が再稼働反対ということで、4 市が現在、議会反対を表明されておりますので、賛成を討論したいと思います。

以上です。

議 長（淡田 邦夫 君）

間もなく 4 時となります。議案が終わりません。時間の延長をお願いいたします。

この採決は起立によって行います。

意見書第 4 号 玄海原子力発電所の再稼働に反対する意見書（案）の提出については、原案のとおり可決することに賛成の方は起立をお願いいたします。

（賛成者 起立）

議 長（淡田 邦夫 君）

起立少数です。したがって、本案は否決されました。

— 日程第12 意見書第5号 道路整備事業に必要な予算確保に関する意見書(案)提出について —

議 長（淡田 邦夫 君）

日程第12、意見書第5号 道路整備事業に必要な予算確保に関する意見書（案）の提出についてを議題とします。

事務局長に朗読させます。

議会事務局長（中村 義治 君）

（意見書第5号 朗読）

下記のほうに採択された際の、提出先が記載されております。
以上です。

議 長（淡田 邦夫 君）

提出者から発言がありましたら許可します。
6番。

6 番（橋本 義雄 君）

今、読み上げられましたように、道路財源の特別の規制による補助率を掲げた30年度もぜひ、この制度を利用して、道路整備をしたいというふうに考えましたので、賛成をいたしまして、今、私の意見といたします。

議 長（淡田 邦夫 君）

これから質疑を行います。

（「なし。」の声あり）

議 長（淡田 邦夫 君）

これで質疑を終わります。
これから討論を行います。

（「なし。」の声あり）

議 長（淡田 邦夫 君）

これで討論を終わります。
これから、採決を行います。
意見書第5号 道路整備事業に必要な予算確保に関する意見書（案）の提出については、可決することに異議ありませんか。

（「異議なし。」の声あり）

異議なしと認めます。したがって、意見書第 5 号 道路整備事業に必要な予算確保に関する意見書の（案）の提出については、可決されました。

事務局から関係機関へ、別紙意見書を送付させます。

4 時半まで、暫時休憩させていただきます。

(16時04分 休憩)

(16時31分 再開)

議 長（淡田 邦夫 君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

今、議会運営委員会を開いておりますけれども、多少時間がかかっております。

よって、5 時 15 分まで休憩いたします。

(16時31分 休憩)

(17時46分 再開)

議 長（淡田 邦夫 君）

大変長らくお待ちいたしました。休憩前に引き続き会議を続けます。

町長及び副町長の給与に関する条例の一部改正の件の 1 件が提出されました。

この追加案件につきまして、議会運営委員会を開催して協議をしていただきました。追加案件については、日程に追加し、追加日程第 3 とし、町長及び副町長の給与に関する条例の一部改正の件を議題といたします。異議ありませんか。

（「異議なし。」の声あり）

異議なしと認めます。町長及び副町長の給与に関する条例の一部改正を追加日程第 3 とし、日程に追加し、議題とすることに決定しました。

しばらく休憩します。議案書を配付いたします。

(17時47分 休憩)

(17時48分 再開)

— 追加日程第 3 議案第 64 号 町長及び副町長の給与に関する条例の一部改正の件 —

議 長（淡田 邦夫 君）

休憩前に引き続き会議を続けます。

追加日程第 3、町長及び副町長の給与に関する条例の一部改正の件を議題とします。

執行の説明を求めます。町長。

町 長（古庄 剛 君）

（議案第 64 号 朗読）

中身につきましては、総務課長のほうから説明をさせます。

この件につきましては、この前の一般質問にもお話がありました。やはり私としてもいろいろ

ろな考えがありまして、長きにわたって、やはり町民の皆様方にも、大変御迷惑をおかけしたと思っておりますので、私が町長ですけど、担当のそのときも、副町長が担当でありましたので、一緒にですね、私と副町長で責任といいますか、そういうことで減給処分にさせていただきたいということで、今回、条例の改正をお願いした次第でございますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

議 長（淡田 邦夫 君）
総務課長。

総務課長（川内野 勉 君）

ページを 1 枚めくっていただきまして、町長及び副町長の給与に関する条例の一部を改正する条例。

町長及び副町長の給与に関する条例（昭和31年 条例第12号）の一部を次のように改正する。

（条項等の改正等）次の表の改正前の欄中、下線が引かれた部分（以下「改正前部分」という。））に対応する次の表の改正後の欄中、下線が引かれた部分（以下「改正後部分」という。））が存在する場合には、当該改正前部分を当該改正後部分に改め、改正前部分に対応する改正後部分が存在しない場合には、当該改正前部分を削り、改正後部分に対応する改正前部分が存在しない場合には、当該改正後部分を加える。

下が、改正表でございます。

13項に、平成29年11月に支給する町長及び副町長の給与月額、第 2 条の規定にかかわらず、同条に規定する給与月額に100分の10を乗じて得た額を減じた額とする。

附則（施行期日）この条例は、平成29年11月 1 日から施行する。

以上でございます。

議 長（淡田 邦夫 君）
これから質疑を行います。はい、9 番。

9 番（川副 善敬 君）

19年の相手会社が来庁して以来、そして、それから20年ですか、事業を撤退して以来、その温泉権に対してのいろいろな問題で、28年の6月に和解ということで結審をしたということで、この件については、前町長、それからまた、今回、現町長が道義的責任ということで副町長とともに負われたということですが、まあはっきり言いまして、執行部においても温泉施設をつくるということにおいては、やはり町の活性化と発展のためということでなされたわけですけども、まあ和解の裁判官の意見などを参考にすれば、どうしてもその行政執行上、土地承諾書、いろんな問題においてやはり、手続き上、瑕疵があったというような判断でございました。

そういうことで、よかれと思ってやったんですけども、我々、議会としても再三意見は述べておりますし、また、温泉施設ができれば、物産館等も一緒にやろうというようなことで、したわけですけども、こういうふう長い7年5か月なつたってこの問題を引きずりましたけれども、今、町長自らが、副町長も、まあ担当されてなかったときもありますけれども、町長も副町長も、お互い道義的な責任を取られたということで、一定の区切りができたと思います。

それで、この前、温泉施設のボーリングした後を見に行っただけですけども、あそこ草ぼうぼうしてわからないもんですから、あの埋め戻しの温泉、掘削した後については、早急に埋め戻すなり、何なり処置をしなければならぬと思いますけれども、それについては、どう考えておられるのか。

議 長（淡田 邦夫 君）

はい、町長。

町 長（古庄 剛 君）

現状は、今、掘削をして、今まで今、井戸があるわけでございます。ただ、その件については今後どうするのかっていうのは、早急に検討しなければならないと。ただし全部、今、温泉権が外れたっていうことでございますので、町として今後の利用については、十分皆さん方と協議しながら考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

議 長（淡田 邦夫 君）

ほかにございませんでしょうか。

（「なし。」の声あり）

議 長（淡田 邦夫 君）

はい、これで質疑を終わります。
これから討論を行います。

（「なし。」の声あり）

議 長（淡田 邦夫 君）

討論もないようでございます。
これから採決を行います。

議案第64号 町長及び副町長の給与に関する条例の一部改正する件は、原案のとおり可決することに異議ありませんか。

（「異議なし。」の声あり）

異議なしと認めます。したがって、本案は原案のとおり可決されました。

先ほど、全員協議会の中で、町長の発言の申し出がございましたので、町長の発言について、許可することに異議ありませんか。

（「異議なし。」の声あり）

したがって、異議なしと認めます。したがって、町長の発言の申し出を許可することに決定いたしました。町長。

町 長（古庄 剛 君）

大変申しわけございません。9月の定例会におきまして、2番の議員さんからの一般質問における発言が、私どもとしましては、大変、遺憾のございましたので、一応、意見表明をさせて、私のほうからも、意見表明をさせていただきたいと思っておりますので、発言を、議長に許可をお願いに出たわけでございます。

これは、平成29年9月27日に開会されました、平成29年第3回の9月の佐々町の定例議会の中で、第1日目でございますけど、2番議員の浜野議員のほうから、一般質問におきまして、

「本年 3 月に天然調味料の会社から 300 万円の寄附をいただいたということは、大変ありがたいこと」と、前置きしながらも、安倍政権の問題となっている森友学園問題を引き合いに出し、「町はこのような寄附金を受けたことで忖度し、便宜を図っている」かのような発言をなされておりまして、さらに、土地の売却については、「不動産鑑定による結果で対応をする」という説明をしているにもかかわらず、「過去に用地買収を行った総合福祉センターの買収価格より低い価格で売却した場合は、町長に背任行為に当たる」との発言までなされているところがございます。

こうした、2 番議員の発言につきましては、「不適切な一連の発言について」ということで、我々も町村会の顧問弁護士と協議をした結果、何ら具体的な事実もなく、しかも森友学園・忖度・背任行為といった刺激的な単語が用いられているということで、町民の皆様には誤解を招き、並びに本町に寄附された企業も巻き込みながら不愉快な思いを与えるという、不適切な発言であるとの指摘を受けたところであります。

また、寄附をされた企業と佐々町との信頼関係が大きな影響を及ぼすというような、今回の不適切な 2 番議員の発言につきましては、住民の信頼を得て、町政へのかじ取りを行っている町長といたしましても、まことに遺憾に存じます。

そういうことで、今後、この今回のような事実の裏付けがない、単に刺激的な言葉を並べるなどの発言については、現に謹んでいただくように、私としましては、議長宛てに「抗議文」を提出したわけでございますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

— 日程第 13 発議第 5 号 議員の派遣について —

議 長（淡田 邦夫 君）

日程第 13、発議第 5 号 議員派遣についてを議題とします。
事務局長に朗読させます。

議会事務局長（中村 義治 君）

（発議第 5 号 朗読）

議 長（淡田 邦夫 君）

お諮りします。発議第 5 号 議員の派遣については、原案のとおり派遣することに異議ありませんか。

（「異議なし。」の声あり）

異議なしと認めます。したがって、本案は原案のとおり派遣することに決定いたしました。

— 日程第 14 閉会中の所管事務調査 —

議 長（淡田 邦夫 君）

日程第 14、閉会中の所管事務調査に入ります。

閉会中の所管事務調査について、会議規則第 75 条の規定により、各委員長からお手元に配付しています案件について、調査の申し出がっております。

お諮りします。委員長申し出のとおり、閉会中の所管事務調査を行うことに、異議ありませんか。

（「異議なし。」の声あり）

異議なしと認めます。よって、別紙、委員長の申し出のとおり、閉会中の調査を行うことに決定されました。

以上で、平成29年9月本定例会に付された案件は、全て終了いたしました。

閉会に当たり、町長の御挨拶をお受けいたします。町長。

町 長（古庄 剛 君）

それでは、皆様方に閉会に当たりましては、御礼を申し上げたいと思っております。

定例会を9月27日から本日までっていうことで、皆さん方には、議案の審議をしていただきまして、全議案について御認定をいただきまして、まことにありがたく思っております。

また、いろいろな問題が起こりまして、私についてもいろんな問題が起きました。そういうことで、皆さん方にも住民の方にも、大変申しわけなく思っております。

今後ともですね、やはり我々としましては、一生懸命住民の負託に応えながら、今後とも頑張っていきたいと思っておりますので、議員の皆様方にも、今後とも御指導、御鞭撻をお願い申し上げまして、御礼の言葉にかえさせていただきます。

大変お疲れさまでございました。ありがとうございました。

議 長（淡田 邦夫 君）

私から一言、御礼を申し上げます。9月27日から10月2日まで、佐々町定例会第3回が開催され、6日間の期間がございました。最後の10月2日において、大変、議会進行上、御迷惑かけたことを、まずもっておわび申し上げます。

ただし、議会の皆様方をお願いをしたいと思います。議会において、特に、言論を尊重し、その自由が保障されています。しかし、発言が自由であるからと言って、どんな内容の発言も許されてるというものではありません。おのずから、会議のルールに従って、節度ある発言をお願いしたいと思います。

また、発言の内容によっては、自己の政治的、道義的責任も問われることも考えられますので、よろしく願いいたします。

本当に、どうもお疲れさまでした。ありがとうございました。

（18時03分 閉会）